



われわれは奉仕する

We Serve

 1987~'88
 333-C地区ニュース Vol.6 No. 6


キャビネット構成員一同

地区ACTスローガン

愛と奉仕で平和な世界

ガバナーズスローガン

クラブの活性化

与える奉仕から育てる奉仕へ

会員の質的向上と退会防止

婦人の力を社会奉仕へ

思いやりのある青少年の育成

目次

333-C地区ライオンズ憲章	2
ガバナー	3
第34回年次大会アルバム	4~11
〳 議事運営構成表	12
〳 決議委員会分科会(フォーラム)担当役員...	13
333-C地区年次大会構成表	14
333-C地区第34回年次大会分科会レポート	15~22
クラブ会報からーその1ー	23
前、元地区ガバナー特別寄稿	24~26
手塚キャビネットへの協力御礼 幹事・会計	27
〳 DDG	28~30
アクティビティアルバム	31~32
クラブ会報から	33~35
奥付	36

333-C地区ライオンズ憲章

われわれは、ライオンズクラブ草創の原点にたちかえり、その崇高な精神を信奉し、会員である誇りと自覚をもって、ライオニズム永遠の発展に寄与するため、会員の総意を結集し、ここに地区ライオンズ憲章を制定して、その理想実現に邁進するものである。

1. 単位クラブの尊厳と自主性を尊重しよう。
2. 奉仕の根源は愛であることを確認し心をこめて精進しよう。
3. 友情によって相互理解と強固な団結をはかろう。
4. 組織の簡素合理化と経費の節減につとめよう。
5. グッドスタンディングとは積極的参加の意欲であることを理解し指導力の開発にはげもう。

一年の感謝をこめて



ライオンズクラブ国際協会
333～C地区

地区ガバナー **手塚 勇**

1年というのは誠に長いようで短いものであります。昨年5月の地区年次大会で、華々しくガバナーエレクトに選ばれたのも、国際大会で正式に地区ガバナーに就任し、感涙にむせんだのも、昨日のように思われます。

「愛と奉仕で平和な世界」この大きなスローガンを掲げて、ライオニズムの真髄を探究せんとしましたが、中途半端に終わってしまいました。

「錦を飾った人に花を贈るより、雪中にふるえる人に炭を贈れ」とは中国の昔の諺であります。時代は移り変わっても、奉仕こそ生きる証として、貧者の一灯をかがねようとする私たちライオンズは、キリストの説く「愛」と少しも変りはありません。これがライオニズムの本質であります。

本質は不変であっても、社会情勢は変化して行きます。地域社会が求め、時代が要求していることに、応えていくことが肝要であります。

私は、物を与え金を贈るだけのアクティビティは過去のものであり、これからは、私たちも共に汗を流し、時間と労力とお金を費やして行う奉仕でなければならないと思います。

「与える奉仕から育てる奉仕へ」と訴えて参りました。このことは、各クラブによく理解と共感を呼んで、約90%のクラブが共鳴し、約80%のクラブが、このアクティビティを実施してくれたと思います。

次に「クラブ活動の活性化」ですが、殆んどどのクラブが、「クラブの活性化」を考えています。

然しその実が、どの程度あがったかは甚だ疑問です。「古くて古いクラブは滅び、古くて新しいクラブは栄える。」古い歴史の上に、斬新な感覚でクラブ運営をすれば、クラブは隆々発展する筈であります。最近や、もすれば、組織偏重主義、形式主義、先例踏襲主義のいずれかが、クラブにはびこっていて、ライオンズの魅力と活力を失わせる原因となっているように思われます。

そこで、「会員の質的向上と退会防止」を考えて見ましょう。ライオンズの質とは「知性」であります。知性のないところに良質の奉仕は考えられません。

ライオンズは、スローガンの中に「知性を重んじ」とあり、ライオンズの誓いの中でも「われわれは知性を高

め…」とあるように、知性を高めるために、あらゆる努力を払わねばなりません。

また、会員の増強ですが、私たちが、ライオンズクラブに対して、限らない魅力と誇りをもち、社会に奉仕することに無上の生きがいを感じる時、その喜びと感動を一人でも多くの人と分かち合いたいと思うのは当然です。それが会員増強となって現れなければならないと思います。

今年度の入退会を分析して見ますと、入会数では、さすがにトップは10月の77名、次に2月の46名となっています。これは長年会員増強の月として、会員各位に認識されているからでしょう。次に多いのが7月と9月が同数で35名です。退会の方をみますと、6月が74名でトップ、次が7月の28名、3月の26名となっています。これは全国的風潮であり、キャビネットとしても、6月末の退会防止には早くから力を注いでいる所です。退会が2番目に多い7月は、6月末で退会の処置をしたい所ですが、それをやると、100%クラブ会長賞を受ける権利がなくなって終わるので、新年度に持ち越して退会の報告をしているためで、入会の方も7月は3番目に多いのは退会数を少しでもカバーしようとするクラブ執行部の努力の現れでしょう。総じて今年度は、入会342名、退会253名で、純増89名で終了しました。

次にLSクラブ、LEOクラブについては、当初の胸算用では、リジョンにLEOクラブ1つ、ゾーンにLSクラブ1つを訴えて、正直なところLSクラブが5つ、LEOクラブが1つ出来れば万々歳と考えておりました。然し残念ながら、LS3つつ、LEOはゼロということに終わりました。然し地区の委員会としては、糟谷委員長のすばらしい企画によって近年にない充実した夏期研修会と春期研修会を実施することが出来まして、レオ委員会のメンバーやクラブレオ顧問の方々に感謝いたします。

さて、最後になりましたが、国際プログラムについての御協力に対し感謝申し上げます。

薬害教育および糖尿病教育については、地区内全クラブに侵透していなかったように思われます。然し、LCIFを通してのACTは、実に見事でありました。全員1人10ドルの献金と、1クラブ必ず1名は1,000ドル献金のメルビン・ジョーンズ・フェロー賞を受けられるように訴えて参りました。DDG・ZCの方々が、キメ細かく各クラブに訴えられ、島野地区委員長は、各クラブのLCIF委員長に参集を願い、研修会を行うなど、地区をあげての協力を頂いて、メルビン・ジョーンズ・フェロー賞は111名を数え、おかげ様で、私は国際会長からアワードを受賞することが出来まして、これもご協力下さったメンバーの方々の代表として受賞したものと存じ感謝の気持ちでいっぱいです。この1年間本当にありがとうございました。

第34回年次大会アルバム (333-C地区)

代議員総会

第1



A. 会則・政策・会員・EXT・経理分科会



分科会

B. PR情報分科会



C. 長期計画・リサーチ・指導力開発分科会



第34回年次大会アルバム (333-C 地区)

D YE・LCIF・

国際協調分科会



分
科
会

E. レオ・ライオネス分科会



F. 献血 献眼推進・

糖尿病・薬害教育分科会



第34回年次大会アルバム (333-C 地区)

G. ライオネスフォーラム



代議員総会 第2



第34回年次大会アルバム (333-C地区)

代議員総会 第2



ガバナーエレクト挨拶 (L小泉 昭)



ガバナーエレクト誕生



式典



各
リ
ジ
ヨ
ン
の
入
場



第34回年次大会アルバム (333-C地区)



手塚大会会長あいさつ



立沢大会委員長あいさつ



小川大会幹事の司会



地区役員の面々



大会参加者

第34回年次大会アルバム (333-C地区)



沼田知事のご祝辞



浜田代議士のご祝辞



石川市長のご祝辞



須田県議のご祝辞



敬弔 この1年の物故しに黙禱を



お手伝いのお嬢さん



アワード贈呈



レオから古切手贈呈

第34回年次大会アルバム (333-C 地区)



式典



第34回年次大会アルバム (333複合地区)



式典



333-C地区ガバナーエレクト L 小泉 昭



333-B地区ガバナーエレクト L 亀山利彦



333-A地区ガバナーエレクト L 登坂行雄



第34回年次大会議事運営構成表

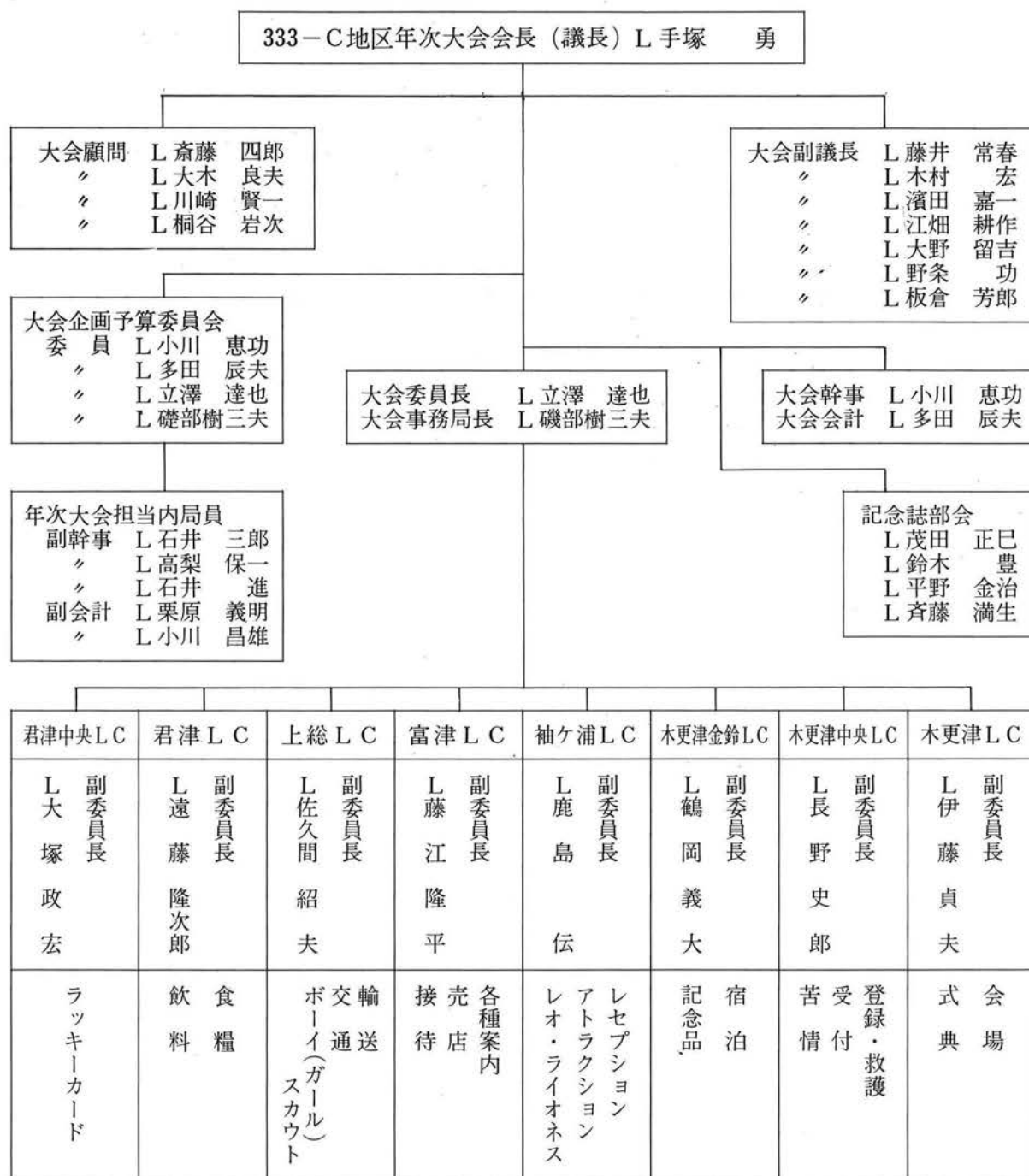
大会議事運営委員会

委 員 会	委 員 長	副 委 員 長
資 格 審 査	L大 野 留 吉 (5 R・DDG)	L川 俣 雅 義 (5 R・2 ZC) L小 松 智慈雄 (5 R・PR情報委員)
議 事 運 営	L野 条 功 (6 R・DDG)	L福 岡 松 一 (6 R・1 ZC) L安 西 喜 一 (6 R・PR情報委員)
指 名 選 挙	L木 村 宏 (2 R・DDG)	L鈴 木 晃 秀 (2 R・2 ZC) L渡 辺 瑞 男 (2 R・PR情報委員)
決 議	L江 畑 耕 作 (4 R・DDG)	L鈴 木 八 郎 (4 R・2 ZC) L嶋 田 秀 雄 (4 R・PR情報委員)

決議委員会分科会(フォーラム)担当役員

分 科 会		顧 問	委 員 長	副委員長 ○印 司会進行 ※印記録係
A	会則・政策 会員・E X T・経理	L 杉浦 明 (地区名誉顧問)	L 藤井 常春 (1 R・DDG)	○ L 和田 康男 (1 R・2 Z C) L 金親善次郎 (3 R・1 Z C) L 飛田樹一郎 (5 R・1 Z C) L 平野 由夫 (地区会員・E X T 委員長) ※ L 岡田 武 (1 R・P R 情報委員)
	B P R・情報	L 秋場 寛 (地区名誉顧問)	L 茂田 正巳 (地区P R 情報委員長)	○ L 川崎 忠男 (1 R・1 Z C) L 木下 務 (2 R・1 Z C) L 高橋 敏雄 (7 R・2 Z C) ※ L 鈴木 豊 (地区ニュース編集委員)
C	長期計画・ リサーチ・ 指導力開発	L 平井 勇 (前地区ガバナー)	L 北村 泰彦 (複合・長期計画委員)	L 佐瀬 喜一 (3 R・2 Z C) L 河野 悟郎 (7 R・1 Z C) ※ L 木場富久美 (地区指導力開発委員長) ○ L 伊藤 政俊 (地区長期計画委員長)
D	Y E・L C I F・国際 協調	L 斉藤 貞雄 (地区名誉顧問)	L 松本 良夫 (地区国際協調・Y E 委員長) L 島野 光司 (地区L C I F 委員長)	※ L 佐久間義徳 (地区Y E 副委員長) L 増田五十吉 (地区Y E 特別委員) ○ L 後藤 隆一 () L 醍醐善三郎・L 青木 孝 L 望月 武峰・L 山内 克巳 L 椎名 英夫・L 川合 敏男 L 深山 穰二 以上7名 地区国際協調・Y E 委員
E	レオ・ライ オネス	L 橋口 一夫 (名誉顧問会議長)	L 糟谷 輝雄 (地区レオ・L S 委員長)	○ L 斉藤 義雄 (3 R・3 Z C) L 松丸 泰介 (地区レオ・L S 委員) ※ L 常世田耕作 ()
F	献眼推進 糖尿病・ 薬害教育	L 吉原 稔人 (地区名誉顧問)	L 高沢 功 (地区献眼・献腎・ 献血推進委員長) L 高橋 敬 (地区薬害教育・ 糖尿病教育委員長)	○ L 片岡 義一 (1 R・3 Z C) L 郡司 明 (地区視力保護委員長) L 高木 仙造 (地区聴力保護委員長) ※ L 平野 金治 (地区ニュース編集委員)
フ ォ ー ラ ム	G ライオネス	L 榎 智光 (地区名誉顧問)	L 浜田 嘉一 (3 R・DDG)	L 小高 昌伸 (6 R・2 Z C) L 斉藤 満生 (地区ニュース編集) ※ L 井岡 俊介 (3 R・P R 情報委員)
	H レ オ (22日)	L 藤田 定男 (地区名誉顧問)	L 板倉 芳郎 (7 R・DDG)	L 宮川太三郎 (4 R・1 Z C) L 三辻 敏夫 (地区レオ・L S 委員) ※ L 井村 大祐 (7 R・P R 情報委員)

333－C地区年次大会構成表



333-C地区第34回年次大会分科会レポート

研究テーマ

(A) 会則・政策・会員・EXT・経理分科会

〈議案〉財団法人千葉県アイバンク協会に対する333-C地区ライオンズクラブの
今後のあり方について(1R全クラブ共同提案)

〈説明者〉1R1Z 市川LC L関口 博之、L山本 繁樹

〈テーマ〉現代社会に即応したEXTの推進について

7R1Z 茂原長生LC L米良 一実

(B) PR・情報分科会

〈テーマ〉1. 情報化時代におけるLCのPR活動について

5R2Z 君津LC L鳥居 操

2. クラブ会報の有効利用について

1R1Z 市川LC L高村 愛樹

3. クラブ会報発行の推進

3R2Z 千葉中央LC L矢田 常吉

(C) 長期計画・リサーチ・指導力開発分科会

〈テーマ〉1. 地区合同ACTについて

2R1Z 船橋LC L小西 宗仁

2. 与える奉仕から育てる奉仕へ「植樹」の推進について

1R2Z 松戸中央LC L山崎 操

(D) YE・LCIF・国際協調分科会

〈テーマ〉1. LCIFを通じての国際協調について

2R2Z 習志野LC L望月 武峰

2. YE派遣生の選考について

4R2Z 光LC L椎名 英夫

(E) レオ・ライオネス分科会

〈テーマ〉1. 日本レオ・デーの再認識について

4R1Z 銚子LC L常世田耕作

2. ライオネスクラブの奉仕活動について

6R1Z 館山LC L石渡 和男

3. 青少年育成のユニークなACTについて

5R2Z 富津LC L山田 嘉広

(F) 献眼推進・薬害糖尿病教育分科会

〈テーマ〉1. 献眼登録の拡大推進について

5R2Z 上総LC L相川千代吉

2. 薬害教育の推進と実施要領について

1R2Z 流山LC L伊藤 實

(A) 会則・政策・会員・EXT・経理分科会

〈議案〉財団法人千葉県アイバンク協会（以下千葉県アイバンク協会と称する）に対する333-C地区ライオンズクラブの今後のあり方について

1 R 1 Z 市川 L C L 関口 博之・L 山本 繁樹

本議案の提出クラブは、1 リジョン全クラブの共同提案とする。

1. 333-C地区ライオンズの協力により、千葉県アイバンク協会の基礎づくりは終えたと考える。

千葉県アイバンク協会は、言うまでもなく、千葉県ライオンズアイバンク協会ではなく、ライオンズとは別個な法人である。だが、設立5年目を迎えた今、千葉県アイバンク協会は、設立準備を含め過去5ケ年にわたる333-C地区ライオンズの献身的な支援、協力により、資金面においても、その機構においても、必要とされる一応の「基礎づくり」を終えたと考える。

2. 真に千葉県民総ての善意を結集した組織に脱皮するためには、これまでのライオンズ主導の人事を刷新すべきである。

別個な法人格を持つ千葉県アイバンク協会に対してライオンズは、自らが関与する問題を除いて、内部干渉することは出来ない。しかし、同じ県民の立場からの要望として、これからの千葉県アイバンク協会は、更に大いなる飛躍を目指して、その名称の通り、真に500万千葉県民総ての善意を結集した組織に脱皮すべきであろう。千葉県の行政機関、有力企業、そして多くの県民の理解と協力が得られれば、必要とされる基金拡充にしても、その効果的な事業活動においても、より良きものがよりスピーディに達成出来るはずである。そのためには、県民各層に広く門戸を解放する人事刷新を含め、アイバンク事業に対する県民の関心を喚起し、より広範な協力を求める事業展開が必要である。そして、この問題においてのこれからのライオンズの奉仕活動は、アイバンク事業本来の目的である、一人でも多くの「角膜移植」を成功させ、視覚障害者に「光」を与えるための具体的活動を第一とすべきである。ライオンズの奉仕活動のあり方の一つの重要な要素は、真に社会的ニーズ（必要性）のある問題を掘り起こし、地方公共団体を始めとする社会の関心を喚起し、その具体的解決の「糸口」を作ることにある。この意味で「アイバンク」に対するライオンズの役目は、333-C地区総てのクラブ支援によって、現時点で見事に遂行されたと考える。

3. アイバンク本来の理念に立っての協力態勢を――。

アイバンク本来の事業は、言うまでもなく、「資金調達」にあるのではなく、「角膜移植」をより多く成功させることにある。そして今、単なる「寄付団体」であることを常に厳しく否定するライオンズのアイバンクに対する基本的な姿勢は、どのようにしたら一件でも多くの「角膜移植」を成功させられるかという問題を、あらゆる角度から考察し、その解決に真剣に取り組むべきであろう。その観点に立った奉仕活動に要する資金であればライオンズは、自発的、積極的にその獲得のための行動を起こすに違いない。

〈テーマ〉

現代社会に即したEXTの推進について

7 R 1 Z 茂原長生 L C L 米良一実

テーマに沿って我がクラブ（茂原長生 L C）の事例を発表して、皆様のご批判を仰ぎたい。

先ずEXTに対するクラブ会長の方針を明確に示し、充分な討議の上、全員の意志統一をはかる。県下（333-C地区）ほとんどの地域にクラブが結成されているので、難しいことであるが残り少ない谷間の中から事前に地域を選定しておく。相当多額の費用がかかるので、クラブ予算処理を充分考慮する。EXT委員会を設置し、委員にはクラブ経験の豊富な、しかも行動的な会員数名を任命し三役は行動を共にする。EXTする地域の徳望家、実力者と言われる人2～3名にクラブ設立に賛同してもらい、メンバーとしてふさわしい人を紹介してもらい、同道して、職場あるいは、自宅を訪問して入会を勧誘する。クラブメンバーにも知人でふさわしい人がいれば委員会に報告してもらい同様の勧誘をする。クラブを理解してもらうために、入会のしおり、ライオンズ必携等を渡し、目的、モットー、綱領等を読んでもらい、組織図を印刷し、特に自分の住む地域の所属等について説明し、全世界の組織の一員であることを強調する。クラブの過去のACTも印刷して説明の資料とすると共に、なるべくクラブ用語は使わない。地域の特異性を充分理解することに努める。会費の問題は関心のあることなので慎重にあつかう。豊かな経済環境の中で奉仕活動に疑問もあるので、物質のみでなく精神の貧困に対するACTについて理解を求め、LCIF等のことよりも広範囲のことはアイバンク程度にとどめ、まず自分の住む地域社会を明るく住みよい街にするためという小さい範囲に目を向けてもらい、その為には一人の力よりも団体の力の有効性を強調する。入会承諾者、保留者が20～30名になったら説明会を数度開き、忌憚のない意見、質問をしてもらう。とかく我々はレベルの違う特殊な人達の団体であるという偏見があるので、その是正をはかりながら、クラブを少しでも理解してもらう。ある程度見込みがつけいたら多少不安はあっても結成会の日程を決めてしまい目標をもたせ指導をする。結成会が終わればCNについては苦労はあるが、流れてゆける筈である。1～2年は会員の増減はやむを得ないと考えざるを得ない。

以上は過去3つのクラブの誕生にたずさわった体験によるものであり、国際協会のEXTに対する指導に反する点もあるかも知れないし、EXTの推進についてというテーマに対して大局的な理論構成もなく、ミクロな具体的なことのみに終始したが、要は信念と忍耐と行動の積み重ねであります。又長い年月をかけるより短い期間の方が効果的であるように思われる。

キャビネットにEXT委員長がいるので、EXTの予定のあるクラブについては、ご苦労でも何度か足を運ん

で指導をしていただければ、励みにもなるし有り難いと思うので、キャビネットで一考してほしい。

(B) PR・情報分科会

〈テーマ〉

1. 情報化時代におけるLCのPR活動について

私が、君津LCへ入会させてもらったのは2年前になる。自分の業種(仕事)が、地域的な色彩が強いので、地域の任意団体であるLCが、何かの役に立つだろうと思って入会させていただいた。そして今、YEの担当と、いろいろな事情でPR情報委員もさせていただいている。

私にとってライオンズクラブとは、何をする団体で、私にとってどんな役に立つのかよくわからないままに、2つの委員会を、先輩諸兄のご指導により、毎月毎月を一生懸命やって来て、半年以上が過ぎようとしている。そしてPR情報委員として、私が責任を感じているのは、会報の編集者として、私の名が載っていることである。

私は、情報委員として、又は、編集者として、先輩に教えられた通りのことをそのまま踏襲してきたままで、編集者の名をよごさせていただいている。しかし、その任ではないのだが、やるからには1つの型を作り、私なりの会報にしたいと言う願いは、日時過るにつれて大きくなってきた。そして、おぼろげながら、PR活動、会報を作るということが何であるかわかってきたように思う。

PRとは、パブリック・リレーションの略語で、事業目的などを、一般社会に理解させようと言う宣伝、広報活動であるということは、ライオンズのメンバーであれば御承知のことと思う。そして、LCによってはいろいろな委員会の名称になっているようだ(例えば情報委員会、PR委員会、会報委員会等)。そしてその役割も、

5R2Z 君津LC L鳥居 操

こと細かく分析すれば違いは有ると思うが、それぞれの委員会が活動していることは、だいたい同じ目的だと思う。

現在、私達の社会環境は非常に複雑多岐にわたっていて、いろいろな情報、宣伝が入って来る。そんな複雑な社会環境のなかで、地域に有る1つのライオンズクラブのPR情報委員が、自分の任務をいかに一般社会へ知らせ、そして自己のライオンズクラブの活動を広報して行くかがPRの大きな目的である。

LCという任意団体は何の団体なのか。ライオンズスピリットにいわく「社会奉仕、それどころ身近な自分達の地域社会への奉仕を共通の目的にした善意の人々の楽しい集り」と。

PR活動とは、情報を流すこと、いろいろな情報を正確にキャッチすること、これも必要であろう。しかし私達ライオンズマンは、上記のような奉仕団体である。誤解もある。PR活動とは、どんな複雑な情報が入ってこようと、その情報の中にいようと、真の意味でLCの活動が「奉仕」の任意団体であり、そのような奉仕を通じてライオンズマンに地域の人々と同じ社会に生き、共に生活を楽しんでいるということを把握して、それを活字にして理解してもらい、地域社会の人々にも、私達の奉仕活動への協力をあおげるように、説得力有る宣伝広報活動であればと思う。

2. クラブ会報の有効利用について～クラブ会報の毎月発行について～

1R1Z 市川LC L高村愛樹

市川クラブ会報もお陰様で昭和37年の創刊以来27年を経て、この4月、通刊200記念号を発行する事が出来ました。この機会に、私ども市川クラブ会報の辿った道程と、そして今では月刊として、毎月、円滑に会報発行が出来るようになったPR委員会の現況を報告致します。

1. 草創期からの歩み

先ず万事不慣れな草創期には委員数も少なく、クラブ運営に手一杯で、結成15年位は年間発行1～2回から隔月発行、折角配布した苦心の会報も、閉会後のテーブルに置きっ放しになっていた、と言う様な苦闘を経ながら平均3～4ヶ月に1回の発行を続け、丁度12年前の昭和51年7月から毎月発行の態勢が整いました。

B-5判、濃紺、白抜きのクラブ題字も創刊当時そのままのスタイルを継承し、周年行事特集号を始め各種集計表を記録保存委員会へも提供しております。

2. 毎月発行の決定と方針

毎月発行の必要性は論外として、PR委員会の一方的な押し着せ型でなく、誰にでも抵抗無く受け入れられ、

PR・情報本来の目的に沿った会報の毎月提供は如何にしたら可能か。委員会としては集稿問題を始めここが一番苦心した処ですが……。先ず委員会基本方針を決定しました。

- イ. 会長方針に沿って毎月発行する事。(資料P② 年間編集計画、全会員の協力依頼)
- ロ. 分担責任編集制をとる。(担当理事、副会長、委員、各3ヶ月を分担して編集会議招集)
- ハ. クラブ一年間全ての歩みを掲載する。(資料P③ 毎月編集予定案、資料P⑤ 統計表)
- ニ. 全会員に自由な投稿を促し心の通い合う会報とする。(資料P④ 原稿依頼、掲載一覧)

3. 毎月発行の定着と展望

一例として、会員誰にでも気軽に書ける「私を語る」「郷土を語る」「私の趣味」など、自由な投稿欄も年間シリーズとしてすっかり定着し、これによってお互いこれ迄気付かなかった、会員一人一人の秘められた趣味手芸を知る事が出来、心の交流に役立ちました。投稿数も

増え今では原稿ストックさえ持てる様にもなりました。分担責任編集制は連続発行へのヒントでしょう。

現在市川クラブのPR活動は、あくまでクラブ会員を対象とした対内的性格を持った編集構成ですが、ライオンズクラブとしてのPublic Relationと云う本来の効果

的な広報活動と、併せて、対外的な地域社会とのCommunication問題などは、これからの委員会に残された一つの大きな検討課題であり、申し送り事項でもありましょう。

3. クラブ会報発行の推進～会報発行の重要性～

3 R 2 Z 千葉中央LC L 矢田 常吉

ライオンズクラブは創立以来、年月の経過とともに歴史は古くなりつつあるが、また一面、社会、経済構造の変革、構成メンバーの変化等により、多くの問題を内蔵しつつある。その1つに会員への情報伝達の拙劣さがある。

キャビネットの方針、連絡、動静、情報、またクラブ理事会や委員会の動静など、一部の人だけの理解にとどまり、全員に徹底するのが極めて不十分である。例会等において会員に伝達されるわけだが、口頭や座談、電話などでは徹底しないのが通例である。会長や幹事のところで埋没してしまうものもある。実出席できなかった会員には、もちろん伝わらない。

こういう結果が、ライオンズクラブというものに失望し、参加意欲を失い、退会の原因となっている。またクラブには親睦が必要だと強調されるのも、こういう日常のコミュニケーション不足が原因である。

情報時代と言われる現在である。印刷媒体の会報を発行して、大いに情報伝達、コミュニケーション、PRを心掛けるべきである。

情報伝達は、目に見えないものである。これでよいと思っていなくても、それが結果的には不足していたという結果になりがちである。一時的な思いつきではなく、会報発行という媒体によって、日常の断えざる情報伝達、コミュニケーションに努めるべきである。

会報という媒体により、会員にとってはクラブのことはもちろん、キャビネット、複合地区、国際協会の方針、動静、活動を理解し、偉大なるライオンズクラブの会員であることに、大きな誇りと矜持と希望をもつことになる。また地域に対しては、大きなPRとなり、ライオンズクラブへの再認識となり、新しい有力会員の入会にもつながっていく。

(C) 長期計画・リサーチ・指導力開発分科会

〈テーマ〉

1. 地区合同ACTについて

●はじめに

人間の活動は、すべて共同を第一義とするもので、個人では何も出来ないことは言うまでもない。ライオンズの使命である奉仕活動においても、まず会員個人の発想により、その眼と耳と足で捜し出した身近なところから、最も社会が希求する問題を選択するところから取り組まなければならないことがまず第1の経路であり、このことがクラブを動かし、アクト実践に通ずることはわかるが、国際化社会へ大きく変移しようとする時、それに呼応する真のアクティビティとは何か、単一クラブの奉仕活動だけでよいものか否か、今改めて広義的視野から見直す時期に至ったのではないだろうか。

現在、仮に単一クラブの予算で、地域社会が真に要求することに応えようとするには、大変至難な課題である。自治体のバラマキ福祉行政に追随するが如き、交際費的感觉を持った寄付行為で安易に処理するコマ切れアクトが目立っている。特に都市部のクラブアクトにこの傾向が強いようだ。これらの実態を憂慮するライオンズ上部指導者層において、ここ数年、合同アクトこそ将来の奉仕の本流ではないかとの言動も出はじめている。大型共同アクト奨励の気運が出たこの時期に、長年に亘り共同アクト問題に取組み、共同プロジェクトによる集中アクト実現に強い意欲を示す小泉ガバナーエレクトの合同アクト論究の系譜を追思し、合同アクト再考の提要としたい。

2 R 1 Z 船橋LC L 小西宗仁

●合同アクトの歴史と実績

因みに日本のライオンズが、草創期に、合同で大型のアクトを実行した例や実績は残されている。ライオン歴の浅い私にとって、合同アクトの経験もなく、その実態を把握することは出来ないが、諸先達各位から仄聞したところによれば、別項の如く、過去に合同アクトは実施されているものの、「ライオンズアクトは、クラブ単位で地域社会（狭義・広義）において実施されることを本義とする」というライオンズ必携の指導の方向性や解釈が、ややもすれば合同アクト実施の障壁となっているようだ。

わが333-C地区においては、独立2年目（藤田ガバナー時代）当時のDDG、小泉ライオンによって合同アクト論議が提起され、試験的見地から、日赤千葉支社に献血車ライオン号が提供された。その精神は、次年度（石橋ガバナー時代）にも引き継がれ、千葉市に梅林が植樹されたものの、それ以後は、既述の理由から中断され、今日に至ったのが実情のようです。

これらの実績や経緯を踏まえて、近時、アクトのマンネリ化やクラブ活動における企画、創意の硬直化を危惧し、警鐘を乱打する心あるライオン各位に共同アクトについての見直しを提起し、論議再開への課題として列挙するものであります。

●合同アクトについての提起

1) 複数クラブ、ゾーン合同、リジョン合同、地区全体

等のアクトは、ライオンズ必携、ACT指標に必ずしも違反するものとは考え難いが、この問題をどのように考えるか。

- 2) ACT実行予算額の大部分は、従来通り単一クラブで実行するには全く異論はないが、仮にその一部分の10%~30%位を合同の事業として地域(狭義・広義)のニーズに応えられるACTとして考えてみてはどうか。

参考: 86~87年度 C地区金銭ACT 233,151,280円

87~88年度 (1月迄の累計) 164,714,527円

- 3) 奉仕の根源は愛の精神から出発すべきもので隠蔽性

は尊重し、評価されるものではあるものの、現実論としては、一般へのPR的意図を含めて、金銭供与も不可欠の要素と考える。また、労力ACTも金銭ACTと車の両輪の関係として重視し、ライオンズの連帯意識の昂揚の源泉として高く評価されるものである。

- 4) 国際化社会の現状が、LCIFの重要性を認識せしめ活性化を高めたことは評価されよう。これらの動きと並行して、LC内部にも合同アクトの必要性を訴える動きが出ている。この動向について、どのように考えるか。

2. 与える奉仕から育てる奉仕へ「植樹」の推進について

~与える奉仕から育てる奉仕に答えて~

1 R 2 Z 松戸中央LC L 山崎 操

今年度の手塚ガバナーの運営方針の1つに「与える奉仕から育てる奉仕」があります。松戸中央ライオンズクラブでは、年度始めの事業計画で最大目標の1つに植樹を実施する、ということをもりこみました。又、継続事業としての剣道大会も市内小中学生を対象にした約17団体200余名を集め、「心と技」を育てる事業を主催致しました。

さて、植樹につき申し上げますと、松戸市では今「21世紀の森と広場」と題して約5町歩の広さにわたって一大公園の建設を進めております。吾がクラブでは丁度今年度は、チャーターナイト10周年にあたりましたので、その記念事業として、アメリカハナミズキ30本、ソメイヨシノ25本、ヤマボウシ25本を寄贈、植樹いたす計画をたてました。近い将来、松戸市民の「いこい」のオアシスとなるこの広場に、この花木類80本が土壤にしっかりと根をおろし、次の世代をになう若い松戸市民に楽しんでいただきたく思っております。週日松戸市長を始め大勢の来賓、そして吾がクラブ全員の参加のもと植樹祭を

執行いたしました。

吾々松戸中央ライオンズクラブは、松戸市の遠大なる公園設計の計画に協力することによって、吾々の事業がライオンズクラブだけのものではなく、良識ある市民1人1人が育てる事の尊さを認識し、次代をになう若者が少しでもライオンズクラブの活動に思いをいたし、奉仕への尊さに目を向け、更に力強い協力への動機づけとなることを目的としたのであります。こうした事が手塚ガバナーの提唱する真の意味での「育てる奉仕」であるのではないかと吾々クラブ員一同信じて疑わないのであります。

今期ガバナー方針に少しでも添うことの出来ました事は、吾々松戸中央ライオンズクラブといたしまして、この上もなく喜びと感動を得るものであり、年度始めに、ガバナー方針として「与える奉仕から育てる奉仕」への目標指示の御指導をいただきました手塚ガバナーに心から感謝申し上げ、私の所信と致します。

(D) YE・LCIF・国際協調分科会

(テーマ)

1. LCIFを通じての国際協調について

2 R 2 Z 習志野LC L 望月武峰

ライオンズクラブ国際協会は、1917年アメリカ合衆国シカゴで誕生しました。創立者メルビン・ジョーンズは、当時シカゴ市の保険代理店経営者であり、ある実業団の一員として活躍しているうちに、同様な商業上、社交上の団体に呼びかけ、地域社会での援助と人類に貢献する事を目標に抱く、強い影響力のあるクラブとして統一しようと言う考えを持つに至りました。これがライオンズ国際協会の始まりでした。その後、時代は変わり、今日では、物の時代は、先進諸国においては終わりました。しかし、世界の中には貧しいため、物と心の両方を求める国が多くあります。

今、日本のライオンズクラブは、アクティビティのための事業資金を地域社会の要望に応じて本当に使っているのだろうか? 飽食の中から、どれだけ本当の地域ニーズを掘り当て、ライオンズクラブの存在価値を地域社

会から認められているのだろうか? これらのライオンズクラブの存命をかけて、アクティビティのあり方を見つめ直す時期が到来しています。そうした中で、ライオンズクラブ・インターナショナル・ファンデーション(LCIF)とクラブ・アクティビティが、本来のライオンズの目的にそって溶け合い結びつき合っていくべき道がありながら、未だ理解に至っていないのが実情であります。ライオンズがインターナショナルである原点を踏まえれば、単位クラブが所在する市町村内等の身近な地域はいうに及ばず、国境や人種を越えて、国際地域社会にも、諸外国のライオンズクラブと手を携えたアクティビティが、LCIFを通じて出来る事を広く知っていただきたいことが第一です。

第二点は、LCIFが寄付金徴収団体的な感覚でとらえられていることを憂慮することにあります。LCIF

を理解し、その真の意義を知ることによって、初めて、ライオンズクラブがインターナショナルな素晴らしさをもっている事に気づきます。そのライオンズクラブ・メンバーであることによって、実際に世界のライオンズクラブが支援を必要としている人道主義奉仕活動に対して、お互いが手を差し伸べ合い、肌の色や国を越えて助け合うという国際奉仕を通じて、道徳面の教育と道徳面の行動が効果的に発揮でき実現できる機能が、LCIFにあります。尚、LCIFも1968年に創立され、1988年度は20周年を迎えることが出来ます。

国際会長並びにガバナー指導のもとに、1988年度までに、メルビン・ジョーンズ・フェローズ（1,000ドル寄付者）2万人獲得と、クラブ全会員1人10ドル寄付の実

行を訴えています。我が333-C地区のLCIFの現況は、4月8日現在各クラブの協力により、多数のクラブの1人10ドル献金と108人のメルビン・ジョーンズ・フェローズ（1,000ドル寄付者）となり、活況をおびています。その基金により世界の恵まれない人々に愛の手を差し伸べようとしているのです。

日本に於いても、ライオンズクラブがインターナショナルである以上、地域社会を拡大して国際協調に重点を移す時ではないでしょうか。LCIFを通して全世界のメンバーと共に奉仕する時だと思えます。

どうぞクラブ会員全員の理解と友愛の気持ちで、LCIFにご協力賜りますようお願い申し上げます。

2. YE派遣生の選考について～YE派遣生の派遣について～

4 R 2 Z 光LC L 椎名英夫

YE生の派遣が、有意義な体験となり、将来への大きな財産として、身につくことを期待し、スピーチいたします。

YE委員として、YE生の派遣する目的を明確に理解していなければと、常に自ら反芻し、活動しております。

「世界の青少年と友好の輪を広げ、ライオニズムを通しての国際親善の役割を果たし、派遣された国々で異なった文化の中、日常生活を体験する」。これが、何といっても忘れてはならない共通理解でなければなりません。

派遣され帰国してくるYE生をみると、派遣される前と帰国後では、人間的に大きな成長があります。自主性・積極性が特に培われ、外国で多くの体験をしたことが、派遣生にとって大きな財産であり、明日への活動への自信となっております。

しかしながら、期待した待遇が受けられず帰国し、二度と経験したくないという派遣生もおります。食事も一日二度、家畜の世話ばかりであった、留守番ばかりであった等例は沢山あります。中には、自分勝手な嘘ばかりつくホストの報告もあり、明日はどこへ、明後日はどこへ連れていくといて、何も知らされず中止であるとか、残念ながらそのような家庭のあることも事実であります。

一部のそういったホスト家庭は別にして、派遣されるYE生にとって、本当に有意義な派遣であったかどうか。本人が体験してきたことを、どう捉えるかで、その価値観は大きく変わってくるのではないのでしょうか。又言い換えれば、派遣される前のオリエンテーションや、各クラブ、そして家庭で、派遣される意義を理解しあうことが大切であると言えます。

ある派遣生の父親が、若い頃のホームステイを振り返り、派遣される娘にこう話したそうであります。「夢ばかり追って外国に行くのではなく、日常生活を体験すること、文化や外国の言葉に慣れることに意義があり、待遇については決して期待してはいけません。ホームステイさせてくれることに感謝を持って日常生活を精一杯過ごせば、以心伝心、必ず、滞り家庭にも、ライオニズムにも通じ、親善も果たせる」と。

まったく私も同意見であります。

クラブや家庭で、子供と共通な理解の上に立ち、「楽しい経験ばかりでなく、色々な体験をすることの大切さ、ホスト家庭への感謝」をより理解し認識しあうことが大切と主張し、終わります。

(E) レオ・ライオネス分科会

〈テーマ〉

1. 日本レオ・デーの再認識について

4 R 1 Z 銚子LC L 常世田耕作

レオ・デーは今から10年前、土佐の高知にて行われた第1回全日本レオフォーラムに於いて決議されました。日本最初の結成をみた「高知レオクラブ」の10周年を祝して全日本のレオが集まりました。土浦キャピネットの時です。レオは1階に、ライオンは2階、国歌君が代の斉唱は勿論ですが、周りの多くのライオンが声高らかにレオクラブの歌を合唱していたのは実に驚きでした。今のC地区制定のレオクラブの歌「明るい瞳」がそれです。

又、反対にレオ等の返事のローアの情けなさにもがっかりしました。感激したり落胆したり、それでもガバナー始め多くのライオン、今は無き市川東の委員長が、夢中の私をお引廻しして下さり、今でも喜ばしく楽しく思

い出されます。次代を担う子供達にたくましさや自覚を与える。私はライオンとしての分担を自覚致しました。レオ・デーは、3月第3日曜日、レオとしての一日、レオでなければ出来ない有意義な一日であって欲しいと思っております。

銚子レオクラブでは、伝統的に年間プログラムに取り入れられて居ります。則ち1ヶ月おくれですが、桜の咲く頃、桜の散る頃、靖国神社へ参拝に行きます。身を挺して現在の繁栄を築いてくれた多くの先輩、父や祖父を偲び、そして皇居前では次代を引き継ぐ自覚をこめて、ライオンズローアの三吼を行います。そして、年に一回、一番行きたい遊び場所で思いきり羽根をのばさせます。

今年は後楽園のアイススケートを計画して居ります。何年前か、行けども行けども遊園地に到着せず、やっと閉園まぎわにたどり着いた事もありました。又、皇居前では、感激したフィリピンレオと邂逅して、一緒に記念写真をとった事もありました。ホストは、長野山梨のライオンの方だったと思いますが、連絡がとれ又御一緒出来たらすばらしい事だと思っています。

多くの仲間レオクラブは、各レオ顧問のため御指導、御協力により、それぞれ有意義に立派な「レオ・デー」を行って居ると存じます。何かレオ主催のリーダーシップをとったイベント、「風上げ大会」とか「紙飛行機大会」とか、周りの子供達、友達と一緒に催しをするレオ・デーなど、きっとすばらしいレオ・デーになると思っています。

「その国の繁栄のバロメーターは、次の時代を担う青少年の他の何ものでもない」と或るガバナーは云われました。又、「争臣七人あらば国は滅びず」とも云われました。そしてレオに「雑草のようにたくましい心身の鍛練を」と云われました。

又、本年ガバナー方針にも、与えるアクトより育てる

2. ライオネスクラブの奉仕活動について

6 R 1 Z 館山 L C L 石渡和男

館山ライオネスクラブは、1979年2月会員数25名で誕生。年齢層は40歳～63歳、全員ライオンの奥様です。3月末在籍数20名。

初代会長、鈴木松子ライオネスを中心に、ネスでなければ出来ない、無理の無い、細く、息の長い奉仕を基本方針に活動を始めました。クラブ内では、会員相互の信頼と友情と理解を深め、楽しい例会作りに努力してまいりました。

結成記念アクトとして、1. 市民運動場へ植樹 2. 老人ホームへカラオケの寄贈 3. 会員の献眼・献腎登録をいたしました。

初年度より継続アクトとして、館山駅前ロータリー草取り清掃（館山市の表玄関である円形花壇に四季の草花が植えられ、来館者の目をなごませています）。この行為に対し当クラブ（館山 L C）で、感謝の気持ちを込めてメンバーの生地提供と印刷の無料奉仕をし、Lマーク入りのあざやかな会員統一Tシャツをプレゼント、夏は早朝5時（平常時は午後2時）より汗を流しています。これも女性のシェイプアップに一石二鳥と、喜んでおります。この風物も年を増すごとに地域住民の理解も深まり、感謝と賞賛を受けています。

このほかにも、

- ・ひかりの子学園への金銭アクトとバザー作品作り、又5周年記念のアクトにはテント一張を寄付
- ・近松良之氏により私財と補助金で昭和55年創立、恵ま

3. 青少年育成のユニークなACTについて

5 R 2 Z 富津 L C L 山田嘉広

地域に密着し地域のニーズに応えた愛の奉仕活動、その中で、次代を背負う青少年健全育成は、手塚ガバナーの唱える、育てるACTとしてのメーンであります。私達富津 L Cでも、ブラザークラブの皆様と同様に、1.

アクト、思いやりのある青少年育成をと、深く静かにおっしやって居られます。しかし私は、その底にあるものの一次の時代を受け持つ青少年に託るもの、青少年育成こそ私達ライオンズの、又親としての最大の悲願でなくてはならないと云う悲痛な叫びを感じるものであります。

意気に燃える多くのライオンの同志が居ります。そして各クラブそれぞれ立派な育成の実をあげて居られます。しかし乍ら青少年育成の精華とも言えるレオクラブの結成、育成がなぜ低調なのでしょう。かつてB地区時代に、ガバナー方針により全ライオンズクラブにレオ委員会設定が義務づけられ、これによりレオクラブの急増に結び付いた例もあります。又、海外派遣制度のレオに適用は、レオを勇気づけ帰国後の仲間づくりの核としての活躍も期待されて居ります。これこそ全ライオンの拠出する青少年育成資金の真価ではないでしょうか。

レオ委員会の全ライオンズクラブへの設置、青少年育成費でレオの海外派遣を、そして各位ライオンの悲願をこめた「ウイ・サーブ」を諸兄の健闘をお祈り致します。

「ウイ・サーブ」

れない子供（3歳～18歳）の施設

- ・1円玉募金、古切手の収集
- ・ゾーン合同アクトの献血と手洗い
- ・本年は、県立安房養護学校児童の身体機能助長の為に役立トリズム楽器、和太鼓セットを寄付
- ・親クラブと合同アクトの国際ライオンズ奉仕デー、Y E 学生受入
- ・キャビネットより要請のアイバンク、L C I F 献金
- ・災害などの援助、見舞い金

などのACTを実施して参りました。

本年は、継続アクトを中心に一人一人が積極的に参加、真心がこもった奉仕活動と言う会長の方針で満9年、会員の協力を得て、和をもってライオニズムを充分理解し、結成時の理念を守り現在まで邁進してまいりました。一時の打上げ花火も出来ます。立派なアクトもお話に聞きます。しかし、毎年指導者も変わります。考え方も変わります。無理な奉仕がかえって不満や亀裂となってもマイナスになります。そのクラブの実態に合った無理の無い奉仕、婦人でなければ出来ない奉仕、楽しいクラブ作りが今後も続く事と思います。

しかし、10年目を迎え、クラブの活性化、十分な奉仕活動、発展には、会員増強はさけて通れない問題として、検討して行かなければならない時期がきていると思われ

ます。

新春・子供大会 2. 歩け歩け大会 3. 青少年野球大会 4. 新春・武道剣道空手大会 5. 中学生の座禅研修等、継続ACTとして行って参りましたが、本日は座禅研修について報告いたします。

一躍動し発展し続ける経済社会の中で、親も子も忙しくその日々を送って行く。金さえあればどんな物でも手元に揃う飽食時代に育った子供達。落ち着きが無く、飽きやすく、物を大事に出来ない使い捨て生活。非行の芽が低学年に下がって来た。こんな10年前、時代に対応する人間形成と創造的能力を開発出来る心の鍛練が最も必要であると考えた時、浮かんだのが座禅である。幸いに当地富津市・君津市に聳える連峰鹿野山に禅青少年研修所があるのを知り早速訪れ、打ち合わせをなす。禅の規矩を基本とした心の研修所であるとの説明に接し、吾が意を得たりと実践に移った。

先ず当時、事あるごとに話題に出る思春期の中学生を対象に中学校と打ち合わせ、部活動の生徒から実施計画を立て、先ず最初、剣道部38名、メンバー8名鹿野山に向かう。有名なマザー牧場隣接の樹木に囲まれた参道の玉砂利を踏みしめながら、好奇心と四囲の静寂さになにか緊張させられる思いで、41段の石段を登り、鹿野山国際禅研修所の尊厳な玄関に到着する。

講師法師の座禅とは、正座して身体を調え、呼吸を整え、心を調えることである。激動する現代は、内外からの刺激によって、とすると自分を見失いがち。座禅による心身一如の境地の中で真の自分を取り戻し（例えて

洗面器の水に顔を写した時、水が動いている時は自分の顔は支離滅裂で現れない。水が動かなくなった時、自分の顔が写り出す様に）即ち動は静より始まること。そして、1.物を大切にすること 2.社会は自分一人では生きられず、他人の力の中にささえられて生きて行く。感謝の念を忘れぬこと 3.正しい礼儀の在り方 等、講話を聞きながら座禅を組む。さまざまな思いが去来する。大きく息を吸って長く吐くこと数回、浮かぶ妄念を全て捨て、やがて無の境地に達する前に朦朧として眠気をさそう。どこかで、警策の音が響きわたる。びっくりして緊張する。そして自ら警策の鞭を望み二度三度、心が引き締まり清々しい充実した気持ちとなる。そして帰り道、寂として私語無し、すばらしい経験である。一

V9達成の巨人軍の川上監督が、シーズンオフには参禅していたことは有名です。座禅により身体と呼吸と心を調え、精神を統一して、自若とした人格が形成され、激しい変化に対処して行くことの出来る〈ハラのすわった人我〉が育成されることを期待して、10年間続けて参りました。

学校側の好評を頂いて居りますので、継続ACTとして永く後世に伝え、健全な青少年の育成に役立てたいと思います。

(F) 献眼推進・薬害糖尿病教育分科会

(テーマ)

1. 献眼登録の拡大推進について

5 R 2 Z 上総LC L 相川千代吉

献眼・献血と云う言葉は、ライオンズのメンバーならば誰でも知っていることですし、ライオンズと献眼運動との関わりも、ご承知の如く、1925年の第10回国際大会で、ヘレン・ケラー女史がスピーチの中で、ライオンズクラブ全員が「盲人の騎士」になって欲しいと訴えられ、熱狂的な反響を受け、ライオンズの奉仕活動の大きな柱となって今日に至ってまいりました。

その間、アイバンクも法律的に認められ、千葉県にも3年前に秋場ガバナーが中心になって、アイバンク協会が設立され、アイバンク運動も確実な輪を広げてまいりました。私の所属しております上総LCも、メンバー全員献眼の登録をさせていただきました。

しかし、この献眼運動は、一人ライオンズだけのものではなく、他の奉仕団体は勿論、一般の方々も共に協力しあって行かなければならないものと思います。お聞きいたしますと、ライオンズメンバーの献眼登録者数が、

メンバー全体の10%位だそうでございます。献眼運動の中心的存在であるライオンズにしては、未だ少ない様に思われます。昨年秋に一部のマスコミによる誤報もあり、一時的とは云え献眼運動に水をさされ停滞していると聞きました。私はこの時こそ、ライオンズメンバーが一致協力して一名でも多くの登録を行い、他の範としたいものと思うわけです。手塚ガバナーも献眼運動については特に関心が強く、メンバー全員の登録推進を希望されております。

自分の血や肉体の一部を他の人々に分ち与えるよろこび、これを広い意味での「愛」といえるのではないのでしょうか。どうかこの年次大会を一つの契機として、あらたな献眼運動のスタートとしたいものです。各ライオンズ、ライオネスの皆様、心からのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2. 麻薬・覚醒剤乱用の現況とその対策について

L 伊藤 實

◎目的:

薬物乱用禍の問題は、今年のスティーブソン国際会長の主要奉仕目標であり、又大きな社会問題の一つでもありますので、総武・常磐線の走る首都圏内にある1Rとしても、積極的に関与してゆく必要があると思う。

◎概況:

世界的には、ヘロイン乱用が拡大しつづける一方、コカインの乱用が爆発的に増加していることが特徴である。

薬物乱用があらゆる社会階層及び年齢層にまで広まっており、幼年期、女性にも徐々に浸透している。

◎地域:

アジア地域、中近東、ヨーロッパ共産圏にもあり、オセアニア、アフリカ、アメリカ大陸の各地域（世界中ほとんど）

アメリカの現況が一番オープンになっているので記してみると、

ヘロイン（阿片の代表的な成分）中毒患者数

50万人

コカイン（コカ葉の成分）中毒患者数

500万～600万人

その外、大麻、覚醒剤、幻覚剤等があり、それ等と有機溶剤或いはアルコールと複合使用している。最近話題の、1985年（3年前）ニューヨークに初めて登場した、「クラック」について申し上げてみると、ちょうど日本のビール瓶の破片状をしていて（熱するとすぐ気化する）これをガラス細工のパイプにマッチ棒の頭ぐらい入れライターで熱すると、すぐ気化してくる。これを吸うと瞬時に強い陶酔感が得られる。製造が容易で安価なこと、注射ではないのでエイズ感染の心配がない為、急増しているが、短期間に強度の依存症になる極めて危険な代物である。しかし「クラック」は、全く新しいものではない様である。コカインのフリーベースで、塩酸コカインに重曹を加えて煮て冷却すると、先程のビール瓶の破片状になる。

◎日本の現況：

国民性と云うか、覚醒剤の乱用が殆どで、昭和45年以降を第二期の乱用時代と云われている。覚醒剤、正式にはアンフェタミンと云われ、ちまたではシャブ、ヤク、ボンと云われている。殆ど密輸入品であることはよく御存じの通り。昨年1987年の押収量は600キロ近くで、およそ600キロと云うと実に3000万回分で、しかもこの量は氷山の一角にすぎないと云われている。

ヘロイン、コカイン、覚醒剤共に中枢性があり、一時的に疲労感、不安感から解放された様な多幸感に浸ることが出来るが、忽ち依存症にかかり、きれると、前にも増して激しい疲労感、不安感におそわれ、中毒症状が現れ、家庭破戒、犯罪の引き金になり、深刻な社会問題になっていることは皆さんよく御存知のことである。

◎今後の対策：

今期の国際協会の対策は、例のLCIF基金によってアメリカ、カナダ、イギリスの、主に10歳～14歳位までの子供を対象として、薬物の誘惑や日常生活の様々な問題に正しい判断が下せるよう訓練し、次の世代を担う子供達の為に多大な貢献をしているそうです。

日本の場合、各都道府県に薬物乱用対策本部と云うのがあって、本県の場合は県庁の衛生部薬務課内にあり、中学生を対象に、パンフレット等で保健所、医療関係者が努力しているが、現場教師の不理解等により、まだ充分徹底しているとは思えない。映画、ビデオ、スライドも、県に有るにはあるが、非常に少ない（17本）。まして一般市民に対しての啓発運動は、保健所が窓口になって一部のボランティアの方々とやられているだけである。献血の様に成果がはっきりしないものだけに難しい面もあるが、もっとLCIとしても積極的に対応してゆく必要があろう。

1Rでは、今期駅頭キャンペーンを実施した。乗降客の多い市川、松戸、柏の各JRの駅頭で、チラシ、ティッシュの配布をした。チラシ、ティッシュは、保健所に相当量用意してあるので、労力アクトになる。回数が1～2回なので、もう少し回数を増やす必要があると思う。

流山の場合は、県より、映画「白い魔の手」16ミリ、24分を借りて来て、市内中学校8校に廻して見てもらった。日本でも漸く昨年の6月1日、財団法人麻薬・覚醒剤乱用防止センターが設立された。政府の肝いりで、日本自転車振興会、日本製薬団体連合会、及び民間の有志の方々の援助で設立された。

連絡先は、東京都港区虎の門2-7-9、第一岡名ビル2F、電話03(581)7436。

本格的な活動に入ったので、近い内に発行してくるものと思う。

クラブ会報から その1



（風俗雑感）

見て見ぬ振りも 思いやり

習志野中央LC L 野口宗雄

スーパーの買物から帰った家人のフともらした言葉は、一つの風俗の変化を私に感じさせた。

「いまどき、八百屋の前を通るとき、スーパーの野菜をかくしもしないで……。まったく、昔の人の気心が懐かしいよ」と、スーパーの横の露店の八百屋が嘆いていたと云うのだ。なるほどと、そう云えば、今は亡きおふくろがつぶやいていた言葉を思い出した。

「なじみの店の前を通る時は、よそで買ったものは、かくして通るか、わざわざ回り道をしたもんだ。今にして思えば、母のことばは、何げない下町風の“イキ”な心配りをいったのかも知れない。

今、こんなボヤキは「何を云っているんだい」「世の中変わったんだぜ」「古い、古い」と一笑に付されるかも

知れない。

数え上げればきりはないが、一事が万事、この種の“イキ”な計らいは、もう日常茶飯に聞かれなくなって久しい。

もっとも、一説によれば、下町の“イキ”には、見て見ぬ振りをすることも上手とか。

かくいう私は、墓づくり業に携わっているが、昔の形式や、しきたりは、できる限り大切に、と心がけているが、お客との会話もかみ合わぬ事が多い。往時の“イキ”な気配りにも、めったにお目にかかれなくなってしまった。

私の体験といい、八百屋のボヤキといい、気脈相通ずると思うのは、トシのせいだろうか。

当世、省略と合理化の時代なのかも知れないが、やはり淋しい。

「でもね」と、家内が云った。「不思議ね。選ぶ客の立場からすれば、当然の行為なのに、人情をはきむと、どうのこうのって」。何げない日常にも、世代感のちがいを、色こく感じる話題だった。

思うに、私の生れは大正末だ。



愛 愛

千葉中央LC

L 安 武 良

愛という言葉、最近あまり聞かれないような気がします。

考えてみると、なかなか味のある言葉だと思いませんか。

この年になって愛なんて、とおっしゃるかも知れませんが、愛にもいろいろあります。

薄れていませんか、愛国心。平和になり、幸せすぎて、愛について考える必要がなくなったのではないのでしょうか。

だが奉仕も、愛がなければ出来ません。互いに空気のような存在になっていた夫婦愛、家族愛、ふるさと、友達。春夏秋冬、花鳥、山河草木、清らかな空気の中、すばらしい愛があるのです。

寿命も長くなったものです。昭和の初め頃は人生50年、短命の国日本。それがどうです。今は平均寿命が80年、長寿国日本です。

小生80才。人生いろいろ。明治、大正、昭和、写真の道に入って60年。その間、結婚あり、戦争、戦災、敗戦。

昭和40年(1965)ライオンズクラブ入会。人生いろいろ。結婚をして51年。年輪を重ねるにしたがい、空気も美しく清らかに、愛も色深く、思い出もなつかしくなってくるものです。

お蔭さまで妻も元気です。

孫娘たちも成人し、息子とともに、創業大正3年の父の業を継ぎ、皆さまの愛に恵まれて、現在に至っております。

一日一日を大切に、愛のある人生を目標に、過したいものです。

美しい愛、優しい愛、力強い愛、信じあえる愛、香り高い愛。

愛は互いに作り出すもの。愛を大切に、愛に感謝を。愛の積みかさね、これこそが人生。



地区新会員の オリエンテーションを実施しての感想

前地区ガバナー L 平 井 勇

「地区新会員オリエンテーションは、新会員一人一人が会員になったことの意味をよく理解し、会員であることに誇りと意義を見出すように企画されたプログラムである。その目標は、新会員の知識を深めることによって退会を予防することである。地区ガバナーは元地区ガバナーを指導員として任命してチームを作らせ、国際協会から送られた資料を検討の上、二回か三回にわたってオリエンテーションを開いた後、チームリーダーはその効果につき調査して国際協会に報告する。チーム編成者は8月末日までに国際本部に送付すること。」

地区ガバナー就任早々、上記のような通達を受けたので、私は国際協会認定のトレーナー資格者でもある元地区ガバナー秋場寛ライオンに御出馬を請い、リーダーとなって頂き、顧問に元地区ガバナー杉浦明ライオンを迎えたと共に、地区運営特別委員長高橋進ライオン、長期計画リサーチ委員長中村清成ライオン、指導力開発委員長高橋巽ライオンをメンバーとするチームを編成して届出、実施に踏み切ったのである。実施の時期は11月から翌年4月までの間が望ましいとの国際協会からの指示があったので、第二回キャビネット会議において此の経過を説明し、リジョン或いはゾーンの単位でも要請があれば、地区行事としてチームを派遣し、プログラムを提供して指導に当る旨を明示した。ともかく第一回の国際ワークショップ、トレーナーである成松高明ライオンを招いての体験学習を開いて、方向付けとしての研修を持った。その後も各リジョン各ゾーンからの別段の要請が

無かったので、引続き第二回は、国際トレーナーでもある秋場寛ライオンの指導で更に高度な基本的概念の浸透を計り、第三回を締括りとして、質疑応答による総合効果を期して開催した次第である。一連の結果は国際協会へ報告され、その努力と実績とに対しては高く評価されたところである。指導された両元地区ガバナー並びにチームに参画された三委員長の御協力を、心から感佩して止まない。

さて、国際協会からの指示とは言え、前後三回に及んだ新会員オリエンテーションの開催については、多くの御意見を伺った。地区繁栄の基礎なのだから万難を排して続けるが良い、手段方法を工夫してリジョン単位ゾーン単位で興味を持たせる演出をせよ、体験学習には魅力を感じた、理解して行事に参加する面白さを味わった、等々好評もあれば一方、新会員の研修はクラブでも行っているのと同様のプログラムでは無駄なことだ、三回も開催してわざわざ一堂に会するのは時間の空費だ、実質効果に期待出来ない、国際協会の指示に応ずるにしても、工夫が足りなくて味気ない内容だ、等の非難も出た。

これを以って反省すれば、

1. 地区新会員オリエンテーションの指導に当るチームの存在が周知されて居らず、趣旨の徹底を欠いたこと。従ってリジョン単位ゾーン単位からの、指導チームの派遣やプログラム提供の申込が皆無であったこと。
2. 国際協会からの指示事項であっても、地域の実態に添う方法とか、或いは時宜に則した実施要領を工夫し

て行う様検討すること。

の二点に大別され、遺憾の意を表さずばなるまい。

地区の運営に当っては組織の機能が大切で、キャビネット役員たる者は須らくそれぞれの職責を自覚して、歯車となり、互いに連携し作動するのでなければ、ガバナ

ー制度の根幹たる主軸の回転に、何等かの支障を来たさぬものでもあるまい。私の経験した地区新会員オリエンテーションの実施を通して、地区ガバナーを中心とした完全作動を所期しつつ、各位の御参考に記す所以である。



初心忘るべからず

ライオンズクラブ国際協会

333-C地区名誉顧問会議長 L 橋 口 一 夫

「初心忘るべからず」これは室町時代の能の大成者世阿弥の書いた「花伝書」の中の言葉で有ると聞いている。

彼は優れた能役者であると同時に評論家としての透徹した目を持って居た様である。私は伝記を知るに及んで、彼の言葉に惹かれ、我が人生の戒めとしている。誠に単刀直入、人生の真実を掴み出して居る様に思われる。私は折にふれこの言葉を噛みしめている、と云うより、噛みしめさせられると云った方が妥当かも知れない。

人間と云うものは誠に勝手なもので、何事にも初めの内は心して励み、怠らぬものであるが、しばらくして馴れて来ると、何時の間にか怠け、周囲の人々の温い協力や厚意を当然の事の様に思い、感謝を忘れ勝なものである。

時には成功は恰も自分一人の力の如く錯覚を起し、驕り昂るものである。そして何時しかマンネリズムに陥り、

感謝の気持を忘れ去ってしまう。これが残念乍ら私共弱い人間の常であろう。昔の聖賢は「日に三省す」と言われたが、現代の煩雑な世の中で、平凡な私共、却々出来るものではない。せめて私は、一年に一度だけでも初心に立ち返り、謙虚に、自分を顧る心の余裕を見出し度いものと思っている。

毎年年頭に当っては、国家の安泰と家族一同の平穏を祈ると共に、心を新たに、些かなり共初心を思い起し、自ら反省して見る事にして居る。敬虔に祈り、自分の周囲の人々や物への感謝を捧げる気持は、また、誠に快いものである。

「初心忘るべからず」不世出の天才、世阿弥が、能の稽古を説いた言葉であろうが、私はしみじみ、彼は芸の達人であっただけではなく、また人生の達人者でも有ったのでは無いかと考えるのである。



風に立つライオン

地区名誉顧問
元地区ガバナー L 斉 藤 貞 雄

先日の本更津での年次大会において、式典の幕の上がる前のオープニング音楽に使用されたのは、さだまさし氏作曲の「風に立つライオン」の一部であった。

実は昨年船橋中央LCの二十周年記念式典の後、さだまさしコンサートが開催されたおり、フィナーレに演奏されたのを聞いてから、すっかり感動してレコードを購入してときどき聞いていたのですぐわかった。

「風に立つライオン」というのは、ある日本の一青年医師が、アフリカのキリマンジャロの白い雪の見える草原の病院に勤務して、原地の人たちを診療しているうちに、日本では見えなかった神と生命、そして医師と患者の関係に目覚め、いまや日本人が忘れてしまった人間の真の姿を再確認するという、ボレロ調の素晴らしいメロディーである。

あたかもキリマンジャロから吹きつけるつめたい風に向って、たてがみを風にふかれながら、毅然として立つライオンの姿のように生きたいと願う歌である。

ライオンズクラブの名称となったライオンは、言うまでもなく、リバティー・インテリジェンス・アワーネー

ション・セーフティーの頭文字をとったものであるが、しかし百獣の王と言われる動物のライオンによって表現される意味で、名称にした、とメルビン・ジョーンズも書いている。(ライオンズ・スピリット)

ライオンのイメージは、堂々たる威厳に満ち端然とした容姿であり、そして雄々しく精悍で勇ましい王者の風格である。実物のライオンの行動がそのようなものであるかはわからないが、しかし人間がそのようなイメージをライオンに感じたのは世界古今の共通である。

ライオンズスピリットによれば、大正十二年（実は私の誕生年であるが）当時の国際会長が「名の勝つは恥なり、男として生まれて、名前に負けぬ努力をしたいものです」と、ライオンの名に負けぬクラブにしようと言っている。

けんらんたる色彩と太い線、大胆な構図で有名だった故梅原龍三郎画伯は、奥さんと結婚するとき、既に奥さんに夢中になっていた友人がいたのを、さうような形で結婚した。そしてそのとき、奥さんはその友人に「私は猫に可愛がられるより、ライオンに食われるほうが

いい」と言って梅原と結婚し一生を過した。(新潮45、四月号、私だけが知っている梅原龍三郎、吉井長三氏より)

梅原の絵は、前から何となくライオンをほうふつさせる感があった。年次大会の音楽を聞きながら、私自身、

最近のLC活動がキャットクラブになっていないだろうか、或いは眠れる獅子になっていないだろうか、と反省していた。もっとLCに情熱をもって、風に立つライオンでありたいと思う。



複合地区とクラブの関係を緊密に

地区名誉顧問 L 杉 浦 明
元地区ガバナー

手塚ガバナーの任期も、無事に、しかもすばらしい実績をつみあげて、その幕を閉じようとしています。しかもLCIFではずばぬけた好成績を挙げられました。

病気と戦いながらの健闘は敬服のほかありません。また、ガバナー補弼の任にあったキャビネット幹事始め内局員各Lの協力態勢にも感謝いたします。

準地区大会と複合地区大会を、2日つづきで挙行され、大成功をおさめられた、大会委員長はじめスタッフの方方のご尽力にも、心からなる敬意を捧げます。

この2つの大会の在り方については、複合地区の長期計画リサーチ委員会で取上げ、全クラブ会長へのアンケートや、当日分科会での熱心な討議を重ねられ、研究をつまえたことは、極めて有意義なことであったと思います。組織・運営の見直しについては、ライオンズ多年の懸案であり、ことに複合地区の運営については、真剣に検討されなければならないと思料するものであります。

私見で大変恐縮であります。現在のままでは、複合地区とクラブとの間は、血の通った状態ではないのではないかと心配するものであります。

年次大会の分科会で決議された、ガバナー協議会の議事要録を各クラブへ送付することは、依然として実現されておられません。要望とは云え、年次大会での結論が、ガバナー協議会に無視されることは、クラブ軽視のそし

りをまぬかれません。

また、複合地区の各委員会は、果して充分機能しているのでしょうか。ガバナー協議会議長連絡会議と、各複合のガバナー協議会との関係はどうだろうか。ややもすれば、各複合のガバナー協議会の権威が軽んぜられているうらみはないだろうか。

委員長選出の人事等についても、安易な輪番制がまかり通ってはいないだろうか。

ライオンズの役員の任期は1年というのが原則であり、それはそれなりの長所を持っております。その反面、ことの性格によっては、1年任期のデメリットも無くはありません。そのデメリットを補完する考慮も必要ではないだろうか。

長期計画リサーチの委員長が1年で変わってしまっているだろうか。ライオン誌日本語版の委員は2年とされた旨、要請されている。YEはどうだろうか。会則委員長も3年位は落ちついて留任することを考慮すべきではないだろうか。

幸い、次年度はL手塚が、複合の議長に就任されます。私は大英断をもって、これらの矛盾解決に立向われることを切望して止みません。

大変至難なことがらではありますが……。失言多謝。



ライオンズと「中夏アメリカナ」

～国際プログラムを考える～

地区名誉顧問 L 吉 原 稔 人
元地区ガバナー

この場合の「中夏」は、「中華」と同じ意味である。ただし、現在の中国とはなんら関係がない。中夏というあまり使わない表現にしたのは、見出しで料理の話と混同されるのを避けただけである。

誰もが知っているように、「中華」とは、昔、漢民族が、自国が世界の中心であり、最も文化の進んだ国の民であるという自負から、自らをそう称した言葉とされている。もちろん、どの国、どの民族にも、誇りはある。要はただ程度の差だけであろう。そして、第2次世界大戦後の世界では、良い・悪いの問題ではなく、アメリカ人に一種の中華思想があると言われる。戦後のベルリン空輸、朝鮮戦争からベトナム戦争を経て現在に至るアメ

リカの世界戦略の基本は、平和の騎士としての「中華アメリカナ」の自負であり、誇りの顯示であった。

きわめて平均的なアメリカ人は、自国通貨である米ドルしか信用しない。例えどんなに対外通貨換算率が不利になろうと、この自国民のドル信任がある限り、アメリカ政府は、安心して「ドル安」の経済戦略の武器に使うことが出来る筈である。

個人としてのアメリカ人の中華思想は、きわめて明るく楽天的な「人の良さ」がある。自らが考えて「良い」ことは、すべての国、すべての人々にとっても良い筈だという単純明快な確信である。大統領から巷の庶民に至るまで、この基本は変わらないように見える。

現在、世界のライオンズは、162の国または領域に広がり、まさにインターナショナルな組織だが、その大組織の中核役員の過半数はアメリカ人であり、結果的にその政策発想の原点は、「中華アメリカナ」となる。その例証の一つは、いわゆる「国際プログラム」であろう。仮に、“麻薬”と“糖尿病”が深刻な対象地域を、北の先進諸国であるカナダを含む北米、ヨーロッパ全域と勝手に想定してみても、全世界会員数の4割—54万会員にとっては、あまりピンとこないテーマとなってしまう。



論語に想う

人間には切所つまり正念場というものがあります。一生の間に必ず一回や二回あるもののようです。昔の偉人の様に神経がピッと張って、アンテナの感度がよければ、うまく切抜ける事が出来るかも知れません。

論語は499章からなっています。“礼を知らざれば以って立つことなし”これは論語の中に度々出てくることばです。“言を知らざれば以って人を知ることなし”人間は自分が大事で、自分を中心に物事を見たり、又考えています。自分に都合のよい者は善であり、自分に都合の悪い者は悪に見えます。だから相手が見えないのです。

“子、子産を謂ふ。君子の道四有り、其の己を行ふや恭、その上に事ふるや敬、その民を養ふや恵、その民を使ふるや義”人間は自分に対しては一番甘いものらしいです。地位は高くなればなる程、役職につけばつく程恭でなければなりません。“実る程頭を垂れる稲穂かな”の言葉の通りだと思います。“その上につかふるや敬”とは、自分への命令に対してはそれを中心に考え、“その民をやしなふや恵”“その民をつかふるや義”とは、部下に対して親切に、私利私欲を捨て相手の立場を考えよ、ということでしょう。

“貢問いて曰く、一言にして以て身を終ふるまで之を

ステイーブンソン会長のいう「地域別政策展開」、小川第3副会長が提唱した「地域別プラスアルファ」に真剣に取り組まなくてはならない時期にきていると思う。

昨年、国際理事会長期計画委員会は、トフラーが顧問をしている未来研究所に「21世紀を迎えるライオンズクラブ国際協会—何が変わるのか」という研究を依頼した。皮肉なことに、そこで指摘された、将来重要となるいくつかの奉仕計画についての提言のなかに、現在の国際プログラムは現れてこない。

地区名誉顧問 元地区ガバナー L 秋 場 寛

行う可き者有りや。子曰く、其れ恕か。己の欲せざるところ人に施す勿れ”一言で言えば、相手の立場に立って物事を考え、思いやりの姿勢で人に接する様にしなさいということです。“恕”という言葉は孔子の徳目の中で最高のものだと思います。“是公問ふ、君、臣を使い、臣、君に事ふること、之を如何にせん。孔子対えて曰く、君は臣を使ふるに礼を以てし、臣は君に事ふるに忠を以てす”今の時代で言えば、社長、部長、課長、又ライオンズクラブで言えば、ガバナー、DDG、ZC、会長と置き換えて見れば分る様な気がします。要するに人間の縦の線で、先輩、後輩関係で、広い思いやり、温かい心を持つ事が礼の根本思想であると説いております。

今日の社会で、よく経営参加という言葉を目にしますが、これは会社の実績検討会だと思います。検討会に参加して経営感覚を養成する事が大切だと思います。ライオンズと云う構成員スクールがこれにあてはまるものと思います。

二千数百年前の孔子の時代でも、今でも、人間の本質には余り変化はありません。人間が如何にあるべきかという事は今も昔も変わらないと確信しております。

手塚キャビネットへの協力御礼



よき友に逢えて

CAB幹事

L 小 川 恵 功

「光陰矢の如し」の言葉どおり、アッという間に任期が終了しました。ふりかえると昨年7月、勇将・手塚ガバナーよりCAB幹事を仰せつかり、身に余る光栄とは思いますが、その責任の重大さを痛感し、この大任が果たせるか否か不安で一杯でした。然し任命された以上は、己のベストを尽して精進努力いたしたつもりです。幸にして優秀な内局員に恵まれ、円滑なる地区運営がなされ



真の仲間と
その土壌づくりを

CAB会計

L 多 田 辰 雄

「光陰矢の如し」とか、長く感じた一年も、あっという間に過ぎました。昨年今頃は、使命感、責任感、不安感交錯の最中でした。

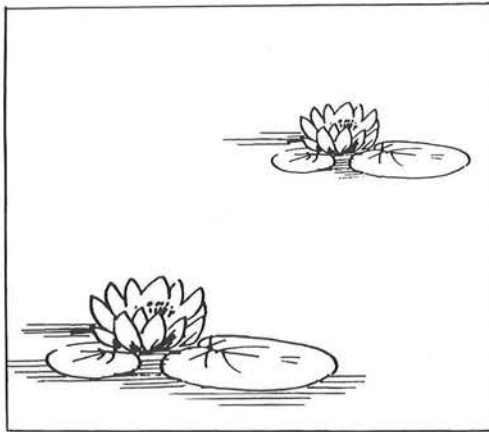
与えられた燃料で最大の効果を、なんて張り切ったものの、浅学非才の凡人では……。もう少し気のきいた会計なら、より内局の方々に力を発揮していただけたらと思う、とそんな己の足らなさを嘆いております。★

※たものと自負しております。

8月下旬よりガバナーに同行、館山をスタートとし、公式訪問に県下一円隈なく走り、メンバー一人ひとりとの新しい友情が次々に芽生え、又クラブ周年式典、認証状伝達式、LSクラブの結成確認書伝達式等、数多くの行事に出席させていただき、心温まる友情と歓待にあずかり、この一年は終生忘れることのできない充実した年であったと思われま。

又、年次大会もホストクラブのご苦勞と献身的なご尽力により、複合大会共々盛會裡に終えられたこの感激は、私の腦裏から生涯断つことはできないことでしょう。

終りにこの一年間何かとご指導頂きました名譽顧問の方々、そして絶大なるご支援、ご協力を下さいましたCAB構成員、全クラブの皆様方に、衷心より感謝を申しあげ、お礼の言葉といたします。有難うございました。



★ 手塚ガバナーのライオンズにける情熱、執念は実にすばらしいと思います。この一年間、激務といわれる行事、公式訪問等忠実に実行、各クラブに対して適切な指導を行い、ライオニズムの高揚をはかり、すばらしい業績を残された事は尊敬するばかりです。

病軀に鞭打つガバナーを助け、日夜東奔西走し通した幹事L小川恵功、この一年のご苦勞は大変であったと思います。又これを補佐し献身的に活躍した副幹事の方々、足りない会計を陰より支えてくれた副会計の方々、そしてDDGを始めとする地区役員の方々のご援助に対し、心から感謝申しあげます。

過去数年、一般会計の逼迫が心配されたその様な中で、経費の節減を心にかけながらも意のままならず、現在整理中故結果は不明ですが、どうにか明るい兆しは致します。だが今後運営面の合理化は必然と思われま。

ライオンズは慣例に従い、といわれまますが、悪い面まで踏襲することはありません。新しい時代に添った運営が望まれま。ライオンズの精神は奉仕にあります。奉仕は自ら進んで行くべきもので、命令によって活動すべきではありません。それぞれ地域差、立場、持ち味、相違が生まれるのは当然のこと、だからこそお互いの立場を尊重しあえる、真の仲間が必要と思われま。その土壌づくりは単位クラブの例会にあると思われま。この一年を振りかえり、クラブ訪問、各行事を通して多くの方々とお会い、ご意見を拝聴し、多くの知己を得たことを大きな喜びとしておりま。

その間、ご協力をいただいた各クラブの皆様は心から感謝申しあげ、今後のご健勝、ご活躍を祈念申しあげま。

ディピュティガバナー

一年を顧みて



1R DDG

L 藤 井 常 春

季節はめぐって、又紫陽花の時期を迎えようとしています。去る5月21日、1年間の締括りとしての、第34回年次大会が、新緑に包まれた南房総の玄関口、木更津で盛大に開催されました。

午前は、分科会に於て、議案の決議と、研究テーマの発表があり、午后は、沼田知事、浜田幸一先生外多数の御來賓出席のもと、厳肅且華麗な式典が行われま。

最後に、待望の年次大会アワード、ガバナーズ・アワードの発表があり、1リジョンは、身にあまる数々のアワードを頂き、感激のうちに式典が終了し、つづいて、“潮の香りとロマンの木更津の夕べ”と銘うってのレセプションが盛大に行われ、木更津の夜は更けて行つたのであります。すばらしい大会を設営された、手塚ガバナーを始めとして、L立沢大会委員長、そして地元各クラブの御苦勞に対し、心より御礼を申し上げます。

そして、吾々の任期もあと旬日で終りとなります。激しく燃えたこの一年間、長くもあり、又短くもありました。

今期計らずもディピュティガバナーの大役を拝命し、身を挺してことにあたられる手塚ガバナーを拝見し、吾々は振るい立ったのであります。幸いにも、ZCであるL川崎、L和田、L片岡と云う、ベテランのお力添えを頂き、どうにか責任を果すことが出来ま。この間、たくさんのすばらしいライオンとの出会いがあり、生涯を通して忘れることの出来ない、貴重な体験をさせて頂きました。思えば、私は大変幸運な男でありました。

今後任期が終りましたら、又静かに、一會員として過して参り度いと思っております。お世話になった各位の御幸運を心よりお祈りしつつ、お礼の挨拶と致します。

ライオンズの 発展を願って



2R DDG

L 木 村 宏

本年度手塚ガバナーの掲げた基本方針の中で、私は「ク

ラブ活性化」と「育てる奉仕」に、重要な意義を感じ共鳴したものである。ライオンズの終局の目的は世界平和であり、その実現に向って我々は奉仕を続けているのである。日本は戦後40年を経過し、経済的にも世界にその地位を築くことが出来た。しかし残念なことには、世界に於いて今だ局地的戦争や飢餓に苦しむ国々が存在していることは、いつもながら心の痛むことである。

この現状を見る時、我々ライオンズの活動が、この時代に即応した行動がなされているのかと思う事がある。

多様化時代と云われる今日、本当にニーズされている問題を把握し、それに対応する奉仕やACTが実践されているかどうかである。

全国ライオンズのACTの合計は年間数十億円に達しているが、それらの金銭と労力が有効に生かされ、そして社会から評価されているのが最終の問題なのである。

地域社会に於いて、ライオンズやロータリーは金持の集団である様に批判されているが、実質的な活動は評価の外にあるのが常であり、真に情ないことである。

新しいクラブをエクステンションすることが最大のACTであると云われて来ましたが、現実にはメンバーの減少によりクラブ運営に苦しみ、活動自体が停滞しているクラブ、そして最近では、消滅して行くクラブさえあるのを見るにつけ、ライオンズクラブはこのままで良いのかと自問し、ここで再考をする必要があるのではないかと痛感する次第である。

C地区内に於いても危機を迎えているクラブが存在することを聞く時、一層身近かな問題として真剣にその対応を考慮して行く時であると思うのです。

衰退をする原因として、各クラブは、メンバーの総意と意志によって活動し運営されているか、そして時代にマッチしたフレッシュなACTであるのか、最後にそのACTが育ち、総てのメンバーが満足出来たのかどうか、この点について反省し、意見の交換がされているか、再考する必要があります。クラブは不滅であり、ライオンズクラブは永遠に継承され続けなければならない使命を有するものである。自分自身1年間のDDGとしての職務に当り、多くを反省する所であり、自からの未熟さを痛感すると共に、今後のクラブの活動は、世界的視点に立つ奉仕活動を推進して行かねば、と心を新にしている次第である。

ライオンズクラブは、クラブの為にあるものではなく、地域社会や世界の平和を念願するために存在しているものであります。

議論や討議を活発にすることによって進歩するものであり、斬新なアイディアが生まれると思うのです。



思い出多い 一年でした

3R DDG

L 浜田 嘉一

6月8日に召集された次期キャビネット構成員の研修が行われた時が最初で、この時から一年間は私にとっ

てライオンズクラブ員と名誉な仕事をするのだ、と張り切って出席し、一つ一つが大事な事であると感じたのであります。

引きつづいて第一回のキャビネット会議が7月26日に木更津市で行なわれました。ここで始めてDDGなるものの役割りが如何に大事であるかを、更に認識したので、PR情報委員のL井岡俊介君や、1Z・ZCのL金親善次郎君にも、たまたま我がクラブの一員でありましたので、特に協力と応援をしてくれる様に話をしたのであります。この会議でガバナー公式訪問の日程等が発表され、DDGの仕事が始まるのだなあと感じたのであります。

それから、ガバナー公式訪問になる前にクラブ訪問を終らせられるかなと考えたのでありまして、先ず自分の所属しているゾーンのクラブ訪問から、ゾーン三役会に出席しようと、PR情報委員と相談して実行し始めたのであります。

9月19日に、いよいよゾーンの公式訪問が始まったのであります。会場は市原市で、朝から出発して、会場に着いてガバナーとお会いして、公式の例会前に、クラブ三役とガバナーとの運営会議、ガバナーからの各質問の解答がなされるのですが、その時の席に我々も同席しました。ZCが主役で我々の席もなくて、おおいそぎでつくる様な状態でした。さらにゾーン会議に、我々に連絡のない時がありました。と云うわけで、その公式訪問の時も、PR情報委員の席を急いでつくったのですが、ガバナーに聞いたら、DDGはガバナーがいる時はいいいので、ガバナーがいない時に必要であると云うことをいわれたので、更にわたしの役割りなるものがわかったような気がしました。そこでその後の行動には充分注意して来たのです。

又任期中特に思い出すのは梅の木の前で、旧試験場の土地にある一万本の木の処置について、現3Rの役員千葉市内にあるクラブより、当時の関係者をもって委員会をつくって協議する様になった事です。又この期間中前DDGの努力によって、成田クラブの方々が非常に骨をおられて酒々井クラブを誕生させ、11月にチャーターナイトが行われたことは非常に嬉しいことでした。

又私の所属するクラブが丁度今年度が20周年にあたり、記念行事が行なわれ、ガバナー公式訪問もそれにあわせて、1Zの皆様も午前中には会場に集合して公式訪問を受け、その後クラブの記念行事に参加されたことは、ほんとうにすばらしい事でした。その他思い出す事がたくさんあります。キャビネット会議の訪問の事、他リジョンの記念行事等、色々あるわけですが、ほんとうに1年間楽しく行事に参加できて嬉しく思っています。

最後にガバナー始めキャビネット役員の皆様に、御指導、御協力をいただいた事を厚く御礼申し上げて、思い出いたします。





一年を回顧して

4R DDG

L 江 畑 耕 作

第4RのDDGの職務を受け継いでから、早くも一ケ年が終ろうとしている。卒直に申して、LCの職責の任期が一年であってよかったと、しみじみ感じている次第である。

一年間を振り返ってみると、手塚ガバナーが提唱された「与える奉仕から育てる奉仕へ」については、植樹や青少年健全育成のアクティビティを通して、ある程度の成果を挙げられたものの、猶不十分という悔恨が残った。然し、アクティビティに対する新しい認識と使命感を各クラブが抱いたことは事実であり、今後の奉仕活動の方向性を示唆するものとして、次期のDDGにも尊重していただきたいと思う。

次に「婦人の力を社会奉仕へ」の提唱を受けて、何とかネスクラブを結成したいと努力したが、実現できなかった。その原因として、ネスクラブの育成と維持を非常に負担と考えているメンバーの多いことと、地域的に婦人の社会活動への参加をためらう風潮のあることなどが考えられる。無理に作ろうとしないで、現在各クラブの行事に参加されているレディスの人数と協力を徐々に拡大して、婦人サイドからのクラブ結成の機運を待つ方が得策との結論に達した。

本年度わが第4Rでは、クラブ会報発行に対する「会報編集研修会」と、新人会員のオリエンテーションを開催して、それなりの成果を得たが、同時にリジョン内の交流を深めることに役立った。その後、各クラブが第何回という区切りの例会を「記念例会」として、リジョン内地区役員とブラザークラブの三役を招待するという慣習が生れつつある。この事は、ライオニズムに忠実な例会重視につながるもので、それを契機に、互に例会の在り方を反省し学び合って、真に意義ある例会たらしめることは、クラブ活性化の面からも喜ばしい事である。

今や日本のLCも、退会防止と会員維持を叫ばなければならない重大な転機を迎えているが、幸い当リジョンでは本年度20名のメンバー増強を見ることが出来た。退会防止の為に、何よりもメンバーの一人一人が溶け込むことの出来る、魅力あるクラブであることが第一条件であると思う。そのためには、クラブ運営は友愛と親睦を以て家族的であり、クラブ活動は愛と奉仕を以て能動的である事が要求される。而も両者はメンバーの経済的並びに時間的能力内にあって互に均衡を保つよう、執行部によって指導調整されなければならないと思う。こうした魅力あるクラブには、自ら優秀なメンバーが集まるということ、DDGの実感として得たことを伝えたい。

最後にこの一年間、ご指導とご交誼をいただいたガバナーを初めとする先輩ライオンと、ご協力をいただいたリジョン内全メンバーに満腔の感謝を捧げる次第です。



この一年を

振りかえって

5R DDG

L 大 野 留 吉

今回、年中一大行事の第34回年次大会が、無事成功裡に終了致し、心より御喜び申し上げ、感謝致して居ります。本年度最後の地区ニュース編集に際し、茂田地区PR情報委員長より、原稿依頼を受け、一言申し上げます。

当初は、5Rより1980年度杉浦ガバナーが選出され、ZCを指名され、今回5R御二人目の手塚ガバナーのDDGを指名され、その器ではないと思いながら、同じクラブのチャーターメンバーであり、又御近所という考えから、御引受して頑張り、健闘してきましたのですが、中間より、歯の為、体調を崩して、各ブラザークラブの皆様をはじめ、ホームクラブ、特にCAB構成員の皆様にお迷惑をお掛け致しました。しかし、幸いにして1Z・飛田、2Z・川俣両ZCをはじめ、各役員、会員、各Lの方々の御指導並びに御協力のお陰で、余す所第4回諮問委員会が、当初の予定通り6月5日木更津会場にて、最後迄勤務できました事を心より感謝致して居ります。

L大野、思うに一にも二にも健康第一として、次に各Lがライオンズの誓いを良く守り、国際会長「We Serve」、手塚ガバナーの「愛と奉仕で平和な世界」各会長方針を合わせて、一緒に守り、この度各地区LC共々成功の内に、地区年次大会並びに、複合地区大会が終了した事を、心より感謝致し、今後益々ライオニズムの高揚の為、精進致す心算です。

終りに各LCの御発展と会員各位の御健勝と御多幸を御祈念致し、又次期333-C地区並びに複合地区の御成功を御祈念し、地区PR情報委員長はじめ、各委員Lに長い間の御苦労に対し、感謝申し上げます。



各クラブの真摯な 努力にうたれる

6R DDG

L 野 条 功

地区最大の行事である年次大会も、5月21日薫風さわやかに新緑に映えるこのよき日のもと「愛と奉仕で平和な世界」をモットーとした中で、友情と交歓のうち盛大裡に終わりました。DDGを委嘱されて一年、もう退任の時が来たのかと思うのです。当初の意欲に反して未消化の部分が数多くある事の実感です。とはいえ大過なく重責を果たすことが出来た事は、ガバナーの深い思いやりのあるご指導と、ZCのクラブへの指導・連絡・企画と、積極的に行ってくれたおかげと感謝しております。又PR情報委員のL安西氏は役柄をこなしながら、DDGの会計事務も遂行してくれました。重ねて御礼を申し上げます。尚ガバナーより強く希望された館山南部地区に、ネスクラブの結成を依頼されましたが、実現出来なかった事を残念に思っております。

DDGのクラブ例会訪問は重要な役割です。訪問で気付いた事は、各クラブ共、例会の活性化に努力を払って、質的向上を図りながら地域社会に貢献出来るよう、各クラブ三役はもとよりメンバーの総力を結集して、クラブ運営に積極的に取り組んでおります。

古くて古いものは滅び、古くて新しいものは栄える、と手塚ガバナーは指導されております。正にその通りであると思います。又本年度は重点項目として、会員増強と退会防止に全力を傾注致しました。その結果、概ね順調な推移を示し所期の目的を達成することが出来ました。これも各クラブ三役、及びメンバーの努力の賜と深く感謝申し上げます。

手塚ガバナー初め、キャビネット役員及びメンバー各位の暖かいご協力とご支援により、DDGとして少しも嫌な思いをすること無く、楽しく任を終らせて頂けます。有難うございました。



この一年間を 振り返って

7R DDG

L 板倉 芳郎

月日の経つのは早いものです。去年7月第7RDDGを拝命しまして早くも一ケ年が過ぎようとしています。

この間キャビネット始め河野ZC、高橋ZC、井村PR情報委員の卓越した指導力と、各クラブ三役始めメンバー皆様方の暖かい御支援御協力により、本年度手塚地区ガバナーの運営方針にともない、当初予定されました本年度事業計画もつつがなく遂行され、私に与えられました職務を大過なく無事過ごすことが出来ました事に対

し、紙上をおかりして、心より感謝申し上げ厚く御礼申し上げます。

キャビネット会議におきましては地区ガバナー、名誉顧問、キャビネット構成員皆様方の御指導を戴き、各リジョンのDDGより、それぞれのリジョンの運営活動状況についての実情と今後の運営方針等を拝聴し、当リジョン運営に大きく役立たせて戴きました。

各ゾーン諮問委員会では、ZCを中心に各クラブ三役の皆さんが、ゾーン、クラブ発展の為に、真剣に取り組んで協議されております姿に、心強く深く感銘を致しました。

各クラブ例会訪問におきましては、委員会活動の活発なクラブ、常に新しいアイデアを取り入れたユニークなクラブ、ローカル色豊かなクラブ等、それぞれ特色ある例会を拝見致し、広く見聞を深めさせて戴きました。

又大勢のメンバー皆様方と交流いたし友愛と貴重な体験を収めさせて戴きました事は、私の生涯忘れる事の出来ない思い出と胸に深く刻みこみ、今後メンバーの一員として、リジョン、ゾーン、クラブ発展の為に役立たせてまいる所存で御座居ます。

第7R本年度主な行事

- 1987年 8月23日 第一回第7R会議
- 9月20日 茂原長生LC20周年記念式典
- 〃 長柄LC結成式典
- 10月11日 地区ガバナー公式訪問
- 10月22日 第7R親睦ゴルフ大会
- 1988年 3月13日 長柄LCチャーターナイト
- 4月17日 大網白里LC10周年記念式典
- 5月8日 第1Z合同例会及び家族会
- 6月19日 第2Z合同例会及び家族会
- 6月25日 第二回第7R会議 次年度引継

アクティビティ アルバム

花配布ACT
松戸LC



献血
下総中山LC



松戸市「21世紀の森と広場」へ
植樹祭 松戸中央LC



江戸川クリーン大作戦実施 松戸中央LC



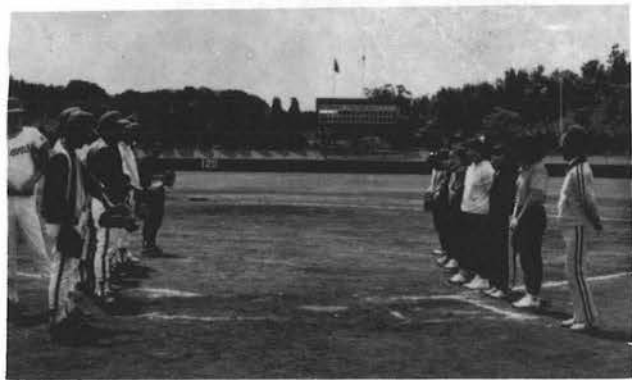
老人ホームのお花見のお手伝い 松戸東LC



老人クラブスポーツ大会のお手伝い 君津LS



チャリティバザーのお手伝い 館山南LC



看護婦チームも特別参加 ソフトボール大会 館山南LC



結成式手塚ガバナーのご挨拶 市原南LSクラブ



安房養護学校生徒の太鼓演奏 館山南LC



愛の献血 6R1Z

クラブ会報から その2



或る夏の日

市原南LC

L高品和夫

昨年の夏も終りに近い暑い日の午後だった。所用があって、岬町迄行かなければならなかった。家内を助手席に乗せて出発したものの、大多喜、国吉を過ぎてから道をたずねたが一向に要領を得ない。仕方無くまたたずねることにした。

車を止めて、とある一軒の家に立寄った。「ご免下さい」と声を掛けても人の出て来る様子が無かった。少し

声を大きくして「ご免下さい」と、声を掛けた。しばらくして年の頃なら七十五、六位のおばあさんが出て来た。

昼寝でもしていたらしい姿で、「ああ岬ですか。此の先を少し行くと道が二つに別れる所があるから、それを左の方に行くのですよ」と、親切に教えてくれた。「有難うございます」と、礼をのべて家を出ようとしたら、彼のおばあさんいわく、「こんなだらしない姿でごめんなさい。昼寝をしていたものですから」と、丁寧におびを入れられた。昼寝の人を起して道をたずねた私の方こそ無礼を詫びなければならないのに、逆に詫びを入れられた年寄りの人柄が今でも眼前に浮かんでくる。今度あの家の前を通ったら手土産の一つも持参して、お話を伺いたいものだと思っている。



「命あらば」 ガンとの闘い！

館山中央LC会長

Ｌ渡辺倫雄

「しまった！アウトだ」目の前を看護婦さんが、今撮ったばかりのX線写真を持って急ぎ足で通る。その写真をちらっと見た私の眼に映ったのは、直径7～8㎝の白い影だった。「直ぐ精密検査だよ」E先生の声がかすかに聞こえる。

昭和57年初夏の頃、動くとき直ぐ息がきれる・咳がでる・のどが乾く・体重がどんどん減る等の症状に、医師である義弟の手配で川崎市の聖M大学病院へ緊急入院。CT撮影や負荷心電図その他、数々の苦しい検査を経て内視鏡検査。私を囲んだ先生と学生の対話がかすかに聞こえる。その中で「クラス3」の言葉が、部分麻酔の頭の中へ入ってきた。「右肺上葉巨大腫瘍」つまり肺癌だ。それも末期に近い。覚悟はしていたもののさすがに愕然とした。「負けてたまるか」然しベッドの中で目をつぶると、今まで生きてきた人生のあれこれが、ものすごいスピードで走馬灯の様にかけめぐる。

8月11日、いよいよ手術と決まる。その前日担当のO先生が病室にみえ2人きりの話が進んだ。そして最後に「いよいよ明日手術です。心を安らかに持って下さい。私も最善をつくします。しかし生きるのは貴方です」。この一言が私を勇気づけた。この先生にすべてをおまかせしよう。

手術の日朝早く眼がさめた。何故か気持ちは安らかだった。「お願いします」。手術台の光がまぶしい。何時のまにか眠りの世界へ入っていった。手術は成功した。右肺上葉3分の1除去。肩胛骨にそった傷口もきれいについた。日に50～60本吸っていた煙草も、命と引き換えに止めることができた。9月4日退院。

然し、病は、これで終らなかつた。翌58年3月、癌は脳へ転移した。運転している車が右へ右へ走り、センターラインを越えそうになる。左腕に力が入らない。目の焦点がきまらず何かにつまづく。かくて再入院。CT検査中に左半身にけいれんをおこし、意識を失った。頭頂部右側に腫瘍が発見された。血管検査・電流検査等数々の検査の後、直ちに開頭手術が行われた。

7時間の手術の結果は大成功だった。意識が戻ってから、先ず指を動かしてみた。握ることはできるが、左手の一本一本の動きが悪い。右手を添えて動かす訓練をする。大丈夫そうだ。あとで家族に聞いた話では「残念でした。リハビリを続けても、左半身に後遺症が残るでしょう」と先生に言われたそうである。その後1年後には左胸気胸。62年6月にはメニエル氏病にかかり、現在も左耳が難聴のままである。

この5年間の闘病の中で、人の痛さがわかる様になった。そして何よりも、私を支え励ましてくれた妻や家族、沢山の先輩友人達、そして担当の先生方に感謝の念一杯である。「命あらば何かができる」「健康ならば何でもできる」。傷だらけのこの身体だが1日1日を力一杯生き、社会奉仕に精進する所存である。

昭和62年7月に第20代会長に就任し、運営にあたった

この1年も、メンバー諸兄の絶大なる協力により、やがてその任期を終了する。



私の趣味“磁石”

市川LC

Ｌ木村宏

趣味は同好の士との付合いを深め、その世界に明るくなり、人間の幅も出てくる。良い事とはわかっていても、現代社会ではそれも仮ならず、接待ゴルフでお茶をにごし疲れて帰った時、ソファでくつろぎながら軽快なラテン音楽で自分の心を浮き立たせる。これが精一杯である。

でもゴルフや音楽は一般的すぎて趣味の内に入らないという。さて、自分にとって趣味とは一体何だろう。こんな題材を与えられると考え込んで了う。強いて言えば、旺盛な好奇心から工夫や研究をするのが趣味とも言える。

今、磁石に凝っている。研究する程、未知の分野が拓けてくる。最近流行の超電導もすばらしい現象である。

地球はN極とS極を持った巨大な磁石である。すべて地球上の動植物はこの磁場の影響下にある。

昔から北枕という言葉があり、死んだ人を枕を北にして寝かせたという。これは地球の南北へ流れる磁力を最も吸収し易い体位であり、死んだと思った人が翌日息を吹きかえた事もあるという。このような事が何度かあって言い伝えとなった。高野山の坊さんが殆んど北枕で寝る事で裏付けられると言う。

又実年者が知る事実として、潜水艦乗組員が1ヶ月もこれに乗ると、白血球が減退し毛も抜けて不調を訴えるという。これは潜水艦のような鉄の箱に入る事で磁力が吸収され、深海にもぐることによって完全に地球磁場から遮蔽されるからである。ネズミは6ヶ月で死滅する。

磁気を吸収される地下街や車の中、鉄筋コンクリートのマンション等で体の不調を訴える人も多く、正に現代は磁気不足と言え。そこで、これを補うピップエレキバンや、磁気ネックレスが商売になっている。

植物は南北に多く根を張り、鳩や渡り鳥は濃霧の中でも方向を迷わず目標に飛ぶ。これは大洋を回遊するイルカや鯨も同じで、解剖すると脳に磁鉄鉱状の物質が存在し磁力に反応すると言う。一度大きな磁気嵐があると方向を失った魚が陸地に乗り上げ、鳥は墜落する。これらのウィークポイントを研究し製品も出しているが、長期間を要し、なかなかむづかしい事である。

さてすぐ結果の出るものとして、今マグネットエンジンと取り組んでいる。自動車のエンジンはピストンが上死点に上った時、ガソリンを爆発させそれがエネルギーになっている。それを強力な磁石の反撥力を利用した。それは工夫によりリニアモーターカーの様に重い車体を上げる程にもなる。

テスト開始。音もなくエンジンは回った。これは大変な事になった。排ガス・騒音のないエンジン。ヒョットするとノーベル賞ものか!! この世の常識にエネルギー保存の法則が厳存している。1+1は3になりっこない。色々な思惑が頭をよぎる。3月の正式な能力テストが待遠しい。早速特許を申請、ヒョータンから駒が出ないか楽しみで、これが私の趣味と言えるだろう。



通勤途上人

松戸中央LC

熊谷 裕夫

事務所が都内港区にあるため、毎日、通勤に千代田線の馬橋駅から霞ヶ関駅の間を往復しています。片道ちょうど40分。吊り革にぶら下りながら毎日読書にはげんで(?)います。地下鉄のひどい騒音と人ごみに包まれ、考えようによってはまったく無駄な通勤時間も、私にとってはけっこう楽しい読書の時間です。さて、このごろ何を読んでいるか? 最近になってまた推理小説なんかにこっています。

「殺意の三面峡谷」(これは溪流釣りを題材にした推理小説で、年に数回のイワナ釣りを生きがいしている私は、地下鉄図書館でだけの読書ではがまんしきれず、半分徹夜でイッキに読み終えていました)。「湯殿山麓呪い村」(これはオカルトっぽい)等々、あまり教養をみがく種類のものではありませんが、本屋で目についたものを雑多に手にします。

最近読んだ中で意外におもしろかったのが「復讐法廷」(ヘンリー・デンカー、文春文庫)。娘を殺された父親が復讐のためには犯人の男を射殺します。父親や自首して出て、裁判になります。ハンサムな若手弁護士が法廷に立ち、裁判官・検察官と激しいやりとりの結果、陪審員に対する必死の訴えが効を奏し、陪審員は最後に無罪の評決を下す、といった筋書きです。作者はロー・スクール出身(法律専攻の大学院。アメリカで弁護士になるにはここを出ることが必要のようです)であるらしく、法律的にもなかなかこっています。

さて、ここに登場するのがアメリカの陪審制度。これは、大まかに言えば、裁判での事実の認定は一般人から選ばれた陪審員が行なうというもので、欧米では多くの国でとられている裁判のやり方です。法律の解釈や適用という点ではたしかに裁判官はプロです。しかし、事実の認定、(たとえば、ある男が人をピストルでうったかどうかという事実を、証拠にもとづいて認定すること)では、プロもアマもあるはずがない。むしろ、良識ある市民が冷静に証拠を検討し、議論しあって決める方が一般に納得できる結果が出るのではないか、という考え方によるものです。

日本の刑事裁判を傍聴したことのある方は経験済みでしょうが、日本の刑事裁判はちっともおもしろくありません。裁判官・検察官・弁護士が何かごちゃごちゃやっていて、傍聴している人には何がなんだかかわからないのが大判です。むかし「ペリーメイスン」とかいうアメリカの法廷を扱ったテレビドラマがありました。法廷がスリリングでドラマになるのは、ある意味で陪審制度のおかげでしょう。陪審員というアマの第三者の目にもしっかり見える形で裁判が進行しなければならないからです。

私自身、弁護士になったら、ペリーメイスンみたいな刑事裁判を多くやりたいという希望をいだいて弁護士になりました。刑事訴訟法(刑事裁判の手続を規定した法律)関係の論文など趣味がわりに読んだものです。ところが実際弁護士になって刑事裁判をやってみると、がっ

かりすることが多いのでした。(その結果、現在は手がけるのはほとんど民事事件という訳です)。

日本でも戦前の一時期には、陪審法という法律で陪審による裁判を受けることが可能でした。このごろ、日本でも再び陪審制度を導入すべきではないかという声が大きくなっています。それが実現するのがいつになるかは分りませんが、私も一度陪審員の前で刑事事件をやってみたいものです。風さいの上らない中年弁護士が、ふんとう努力の結果、無罪を勝ちとる。そんな筋書もたまにはいいんじゃないでしょうか。

最後になりましたが、通勤途上に読む何かおもしろい推理小説があったら皆さんぜひ教えて下さい。

深く敬イ参ラスル武夫サン

広瀬武夫とその恋人

千葉中央LC L 福田 富弥



日露の戦い(1904~1905)で、旅順港閉塞に行き、壮烈な戦死をとげ、軍神と謳われた海軍中佐、広瀬武夫は武人であると同時に大変な文人であった。彼の残した蔵書は数百冊におよび、その一冊々々に、広瀬武夫蔵書の印がおされている。兄の勝比

古(後に海軍少将)は弟の志をついで、ロシアの勉強をする者の為に、少しでも役に立てればとの考えから、その蔵書のほとんど全部を、東京外語大学に寄贈している。その蔵書のなかには、彼の専門のロシア軍事学だけでなく、ロシア語学、ロシア地誌学のほかに、オペラの台本や、演劇、文学関係の本が多く含まれている。

この武人の生涯は、三十六年と数ヶ月の短いものであったが、終生「誠」を信条として、目上の人には勿論のこと、少年少女に対してさえも、真心で接した。彼のことからロシア留学生として、首都ペテルブルグに6年間滞在している間に、ロシア貴族の令嬢アリアズナに恋い慕われるようになったのも、うなづけるような気がする。

アリアズナは、ロシア海軍水路部長の要職にある、子爵・海軍少将コバレスキーの愛娘である。スラブ人好みの色白、豊頬の19才のこの美しい乙女は社交界の花形として、若いロシア海軍将校たちのあこがれの的であった。

二人の愛については、広瀬と同時期にペテルブルグに留学していた加藤寛治(後に海軍大将・連合艦隊司令長官)が、後年言及しているし、広瀬の親友、竹下勇(後に海軍大将)も、帰国後の広瀬に対し、「サンクト・ペテルブルグよりやさしき手紙来るや?……」と任地のアメリカから、便りをよこしていることでもわかるように、親しい友人の間では、良く知られていたらしい。

広瀬の戦死がペテルブルグに伝えられるとアリアズナは戦時下にもかかわらず、敢然として3年の間、喪に服したと言われるほど、彼女の愛は一途で可憐であった。

明治35年3月、ロシアより帰国した広瀬は最新鋭戦艦「朝日」の水雷長として着任し、来るべき日に備えて、猛訓練の毎日に明け暮れていた。

—ペテルブルグより一通の便りが届いた。魂を分かちあった懐かしい人からの玉づきである。広瀬は兄嫁春江

に見せるべく、ロシア語の手紙を日本語に訳した。ロシア国教であるギリシャ正教の敬虔な信徒であるアリアズナの便りは、いとしい人への想いのたけを、つつまじやかに、精一杯に訴えている。島田謹二先生のお許しを得て、その著書より抜書させていただく。

深く敬イ参ラスル武夫サン——。

近頃イヤ久シク、堪エガタキ迄ニ待チカネタルノチ、私ノ手紙ニ対スル御前様ノオ答エヲ受ケトリ申シ候。

御前様ヨリノオ手紙ヤ、オ写真ヤ絵ハガキニ向ッテ、私ハ御前様ニ大イナル感謝ヲ捧ゲ参ラセ候。

コレラハ皆、私ヲシテ大イニ大イニ喜悅セシモノニシテ、私ハ御前様ノ私ヲオ忘レナキコトヲ見申シ候。タダ



国際性への自省

松戸LC

L 飯 塚 平八郎

貿易摩擦が切っ掛けで、日本は世界の袋叩きに遭った。また、日本人の性格や行動についても、手きびしい批判がこの時とばかり浴びせかけられた。

いちいち反論を加えたいのが愛国心というものであろうが、じっと耐えて反省を要する点も少なくはない。

1. 日本人はすばらしい。だが余りにも勝ちすぎた。
2. 日本人は国際的マインドの持主になれるか。
3. 日本が生きていくには、幅の広いインターナショナルリズムしかない。
4. 日本はなぜ移民に国境を開こうとしないのか。なぜ他民族の流入を嫌うのか。
5. 日本にとって今後50年の理想は何か。アジアの一員としての生き方は何か。
6. 日本は世界のスーパー・パワーになっているのに、相変わらず小国で貧しいという意識が強い。
7. 日本はこのままでは世界の孤児になる。儲けた金を日本のイメージアップのために使う方法を考えるべきだ。
8. ここまで富んだら、もっと良い家に住み、旅を楽しみ、よりよい生活の消費が必要だ。そうすれば国際的友人もふえ、貿易黒字増がもたらす非難を浴びずにすんだであろう。
9. 日本の強みは国民の同質性にあるようだ。しかしその反面、日本人には個性を伸ばす選択の自由がない。只長い時間をかけて、みんなを同じタイプにしているようだ。ノーベル賞受賞者が少ない理由もこんなところにあるのだろう。
10. 日本人は微妙な言い回しと表情・仕草などを組み合わせる。長い文化的手法で、相手が気持ちを押さえてくれるのを待つやり方である。
11. まるで仏像のようにほほえむだけで、大いなる沈黙を守っているのは何故か。
12. 本音をしゃべろうとしない日本人。と言った具合だ。

日本と日本人のよき理解者である外国人もたくさんいる。また歴史・文化・宗教・教育・人文地文的环境・国民性等から、われらを弁護してくれる外国人も数多い。しかし私たちが、言挙げしない国に生まれ、教外別伝

遺憾ニ思ワレ候ハ、御前様ガゴ自身ニツイテ、オシタタメ下サレシコトノ、カクモ僅カナルコトニ有之候。

私ドモ一統ハ、シバシバ御前様ヲ思イ出シオリ候。

而シテカクモ私ドモガ、御前様ヲ見参ラセタルニ慣レタルユエ、御前様ガ私ドモト一所ニイマサザルコトヲ、非シミ申シ候。

特ニ私ニオイテハ——。

先ツハ心底ヨリ御前様ニ万福ヲ——。

深く敬イ参ラスル武夫サン——。(略)

御前様ニ私ノ誠実ナル慰懃ヲ——。(略)

ナオ再ビココニ万福ヲ——。

アリアズナ・コバレスカヤ

・不立文字の国柄の中で育ち、沈黙は金とか不言実行を美德とする教えを受けて成長したことは事実であろう。

従って、つい最近まで多くの日本人が歩んだ途は、先ず一族の繁栄、次いで国家の繁栄といった感じそのものだ。

これからわれらに課せられた途は、世界の繁栄へのお手伝いということであろう。それにはその担い手である一人一人が国際的批判を謙虚にうけとめ、

○日本人は今後国際人として如何にあるべきか。

○ライオンズマンは今後国際協会の一員として如何にあるべきか。

○一委員会としても、その国際的視点において如何にあるべきか。

等を反省し、あらためて国際的に平仄の合う人間になりたいものだ。

「クラブ会報」展審査報告

「クラブ会報」展には、数多くのクラブが出品くださって誠にありがとうございました。忙しい日程の中で、展示場に足をはこばれ、食いつくようにご覧いただいているメンバーの方がたも大勢おりました。意義深く成功のうちに終わらせていただきました。ありがとうございました。

予定通り、6月5日に委員会を開いて審査を行いました。独自性に富んだ会報が多く、序列を作るのに、ほとほと苦しみました。

予告いたしてあったことでもあり、一応次のように評価させていただきました。

出品点数 41

優秀賞 12 市川、流山、柏、習志野、習法野中央、千葉中央、千葉エコー、若潮、旭、東庄、君津、館山中央 以上

編集優秀賞 1 船橋東 以上

PR優秀賞 3 鎌ヶ谷、銚子、大網白里 以上

優良賞 10 松戸中央、松戸東、柏中央、佐原、山田町、木更津金鈴、富津、館山南、館山、館山ライオネス 以上

会報創刊賞 2 千葉ポート、栗源 以上

会報努力賞 13 下総中山、浦安、行徳、松戸、野田、松戸ユウカリ、柏グリーン、船橋、船橋中央、八千代、神崎、千潟、館山北 以上

クラブ会報と地区ニュースとの役割り分担、連携のくふうが、一つの発展的課題であらうと異口同音の感想でした。

敬 弔

謹んでご冥福をお祈り申し上げます



東庄LC
故 L 石 毛 文 行
(4月28日)



千葉LC
故 L 山 崎 啓 次 郎
(5月30日)



九十九里LC
故 L 山 本 実
(5月30日)



四街道LC
故 L 山 崎 貞 司
(6月12日)



市川北LC
故 L 山 崎 鍛
(6月21日)



市川LC
故 L 福 島 堅
(6月22日)

～編 集 後 記～

この種の仕事には、全く素人の私でしたが、どうにか
大任を終わることができました。ありがとうございました。

かつてのB地区時代まで遡っての元地区ガバナーの方
がたはじめ、実に多くの先輩ライオンの玉稿を頂戴して
格調高い「地区ニュース」にして戴きました。

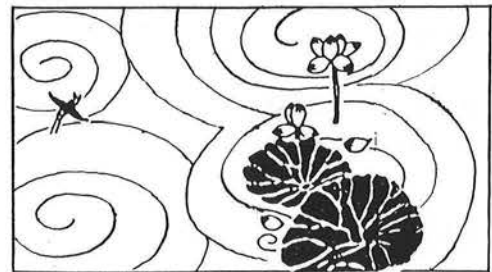
優秀なActの発掘紹介については、各リジョンのP
R情報委員のきめ細かい活躍によって、毎号の中核記事
を構成することができました。

クラブ会報記事からの転載は、ひとつの試みとして、
行ってみました。私共がいただいた「クラブ会報」を読
んでの感動を皆様にお伝えしたかったからです。
「点滴」を受けながら、しかも用務多端の中を全頁、そ
れこそ一字一句、丹念に眼を通してくださった、手塚勇
前地区ガバナーには、何とお礼を、何と感謝の言葉を申
してよいやら戸惑うばかりです。

最後に、編集委員各位にお礼を申し上げます。1号か
ら6号まで全号とも、夜業で仕上げてくれました。仕事
を終えて7時から午前1時までという日が何日あったで
しょうか。50日近くはあったでしょう。ご苦勞さまでし
た。

尚、書き落としてはならないこともあると思いますが
「ご協力ありがとうございました」の一言で代えさせて
いただきます。

333-C地区の限りない充実発展を祈って
ウィーサーブL茂田正巳



PR情報委員長 L 茂田 正巳
PR情報委員 L 岡田 武
PR情報委員 L 渡辺 瑞男
PR情報委員 L 井岡 俊介
PR情報委員 L 嶋田 秀雄
PR情報委員 L 小松智慈雄
PR情報委員 L 安西 喜一
PR情報委員 L 井村 大祐
編集委員 L 鈴木 豊
編集委員 L 平野 金治
編集委員 L 斉藤 満生

1988年(昭和63年)7月12日 印刷

1988年(昭和63年)7月15日 発行

発行所 千葉市間屋町1の55 シーオービル6F
ライオンズ国際協会333-C地区
キャビネット事務局

印刷所 木更津市潮見4の15の1

(株)木更津日报社

電話 0438-36-2277